Apple iMac DV,PowerMacintosh G3/G4
NEC PC98-NXシリーズ
DOS/Vマシン　対応

Ultra SCSI対応　外付ハードディスクドライブ

HDVS-UM シリーズ
取扱説明書

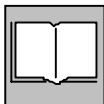
ダミー表紙付

株式会社アイ・オー・データ機器

28206-05

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
5) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan. We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries. We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)
11) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
12) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
13) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
14) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

HDVS-UMシリーズ 取扱説明書
2000.Jul.27 28206-05
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1

お読みになる前に

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

● 呼び方

呼び方	意　味
HDVS-UMシリーズ	添付の別紙をご覧ください。
SCSIボード	ボードのSCSIインターフェイス
SCSI PCカード	PCカードのSCSIインターフェイス
SC-UPCIシリーズ	SC-UPU2,SC-UPCI,SC-UPCINおよびSC-UPCINBの総称
SC-98Ⅲシリーズ	SC-98Ⅲ,SC-98ⅢSB,SC-98ⅢPおよびSC-98ⅢPSBの総称
PCSC-Fシリーズ	PCSC-F,PCSC-FP,PCSC-FFおよびPCSC-FAの総称
CBSCⅡシリーズ	CBSCⅡ,CBSCⅡF,およびCBSCⅡAの総称
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Editionの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows 98/95	Windows 98およびWindows 95の総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0
Windows NT 3.51	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 3.51
Windows NT	Windows NT 4.0およびWindows NT 3.51の総称
Windows 3.1	Microsoft® Windows® Operating System Version 3.1
MS-DOS	Microsoft® MS-DOS® Operating System
DOS	MS-DOSおよびPC DOSの総称
Windows	Windows 98/95,Windows 2000,Windows NTおよびWindows 3.1の総称

もくじ

付 録……………………………129

はじめに

特長	本製品の特長を説明します。（２ページ）
▼	
箱の中には	箱の中のものを確認します。（４ページ）
▼	
動作環境	本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。（６ページ）
▼	
ユーザー登録しよう	ここの説明を読んで、ユーザー登録をしてください。（10ページ）
▼	
取り扱いおよび使用上の注意	本製品を使うにあたって、注意しなければならないことを説明します。（11ページ）

特長

●マルチドライブ（Multi Drive）機能搭載

マルチドライブ機能とは、本製品の容量を２分割して仮想的に２台のハードディスクとして使用する機能です。
この機能で作成した２台のハードディスクは、本製品背面のスイッチでモードを変更するだけで、順番を入れ替えたり、どちらか一方のみをパソコンに認識させることができます。
もちろん、全容量を１台のハードディスクとして使用することも可能です。

《マルチドライブ機能の利点》

・面倒な手順が必要なマルチOS環境※も簡単に作成可能

異なるOS環境をモード切替だけで簡単に実現できます。

（マルチOS環境の作成方法およびマルチOS環境の作成による問題に関しては弊社は一切サポートいたしかねます。ご了承ください。）

・１台のパソコンを複数のユーザー※で共有する際に便利

使用OSの環境などをユーザーごとに分けてカスタマイズ可能です。
オフィスなどで、簡単にパソコンの共有使用を実現できます。

・バックアップに便利

２分割した任意の一方にデータを待避し、パソコンに認識させないようにすることで、誤操作などによるデータ消失を回避できます。

※SCSIハードディスクを起動ドライブとして使用できる環境が必要です。

・BIOSを搭載しているSCSIボードでそのBIOSが使用するハードディスクの容量をサポートしている必要があります。

・IDEドライブを取り外すか、無効にします。
既にIDEハードディスクがありますと、IDEが優先となりSCSIから起動することはできません。
設定方法についてはご使用のパソコンによって異なりますので本体メーカーにご相談ください。

●スーパーマルチドライブ（Super Multi Drive）機能搭載

マルチドライブ機能が進化して、スーパーマルチドライブ機能（91ページ）にパワーアップし、新機能が追加されました。

① 従来のマルチドライブモードでは50:50に比率固定で２分割していましたが、スーパーマルチドライブ機能では、任意の容量での２分割を実現。

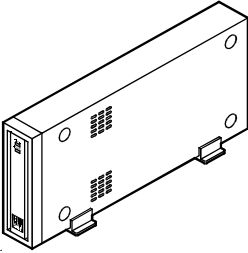
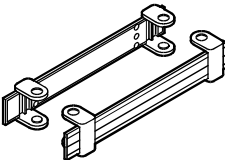
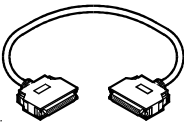
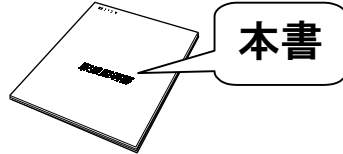
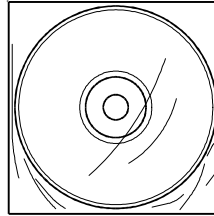
② 専用ユーティリティでパスワードを設定すると、次回パスワードを再入力し解除するまでアクセスを制限する簡易ロック機能。

●横置きも可能なスタッカブルタイプ

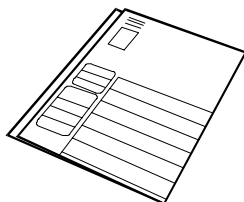
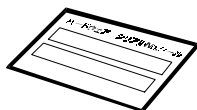
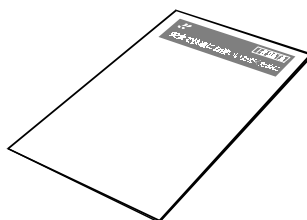
スリムなデザイン。添付の「横置きスタック用アダプタ」を使用すれば、横置きが可能となり、各ドライブを積み重ねることができます。

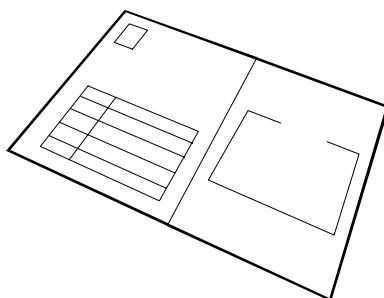
箱の中には

箱の中には以下のものが入っています。
□ にチェックをつけながら、ご確認ください。
万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

お願い：箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

□ **外付SCSIハードディスク**
［HDVS-UMシリーズ］

□ **スタックアダプタ**

□ **SCSI接続ケーブル**
［D-subハーフピッチ50ピン⇔
D-subハーフピッチ50ピン:50cm］

☑ **HDVS-UMシリーズ取扱説明書**

□ **B'sCrew for Windows ＋
Super Multi Drive設定ユーティリティCD-ROM**
［「Super Multi Drive設定ユーティリティ」および
「B'sCrew for Windows」が入っています］

☐ B'sCrew for Windows
ユーザーズマニュアル

☐ ハードウェア保証書

☐ ユーザー登録カード

☐ ハードウェアシリアルNo.シール

☐ 『安全で快適にお使いいただく
ために』

☐ ビー・エイチ・エー社
シリアル番号シール

☐ ビー・エイチ・エー社
ユーザー登録ハガキ

動作環境

対応機種および対応OS

ここでは、本製品が対応している機種・OSについて説明しています。

対応機種	対応OS（日本語版のみ）
NEC PC98-NXシリーズ	Windows 98(Second Edition含む)/95※7, Windows 2000,Windows NT 4.0※8
DOS/Vマシン※1 (80386[i386SX]以上)	Windows 98(Second Edition含む)/95※7, Windows 2000,Windows NT 4.0※8,Windows NT 3.51, Windows 3.1※9およびMS-DOS(PC DOS)※9 [MS-DOS Ver6.2/V(PC DOS J6.1/V)以降]
NEC PC-9800シリーズ※2※3 (80386[i386SX]以上)	Windows 98(Second Edition含む)/95※7※10, Windows 2000,Windows NT 4.0※8,Windows NT 3.51, Windows 3.1およびMS-DOS［MS-DOS Ver6.2以降］
Apple Macintosh※4※5※6	ご使用のフォーマッタソフトの対応OSをご確認ください。

※1　弊社では、OADG加盟メーカーの機種で動作確認を行っています。

※2　通常、同時にアクティブにできるパーティションは４つまでとなります。
従って、FAT16(FAT)では約8Gバイトまでお使いいただけます。

※3　40Gバイト以上の本製品は、マルチドライブモードでのみお使いいただけます。

※4　別途フォーマッタソフトが必要です。［ビー・エイチ・エー社製 B'sCrewを推奨。
ただし、標準SCSIポート（D-sub25ピンもしくはHDI-30ピン）に接続して本製品をお使いの場合は、B'sCrew 2.1.6以降もしくは3.1.2以降を推奨。］

※5　iMac,iBookには対応しておりません。

※6　M6665J/A、M7553J/Aに標準装備のLVD SCSIインターフェイスボードには対応しておりません。

※7　40Gバイト以上の本製品は、バージョン 4.00.950 B/4.00.950 Cのみ対応です。

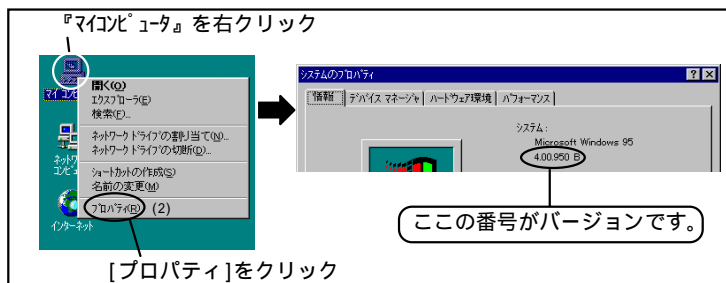
※8　30Gバイト以上の本製品では、Service Pack 4以降のみ対応です。

※9　本製品の容量(マルチドライブモードでお使いの場合は、分割した容量)が約8,033Mバイトより大きい場合は、約8,033Mバイトの容量としてのみお使いいただけます。

※10　通常8Gバイトまでの本製品(マルチドライブモードの場合は、分割した容量)をお使いいただけます。ただし、お使いのSCSIインターフェイスに付属したフォーマットソフトがある場合は、8Gバイトを超える本製品(マルチドライブモードの場合は、分割した容量)をお使いいただける場合があります。（CBSCⅡとASPIFORM.EXEなど）

OS毎の作ることのできるパーティションの最大容量について
【●OS毎の１パーティションの最大容量】(34ページ)をご覧ください。
Super Multi Drive設定ユーティリティの対応機種および対応OSについて
ここの説明とは異なります。【動作環境】(93ページ)をご覧ください。

《Windows 95バージョンの確認方法》

Windows 95のバージョン（4.00.950、4.00.950a、4.00.950 B、4.00.950 C）を判別するには、以下の方法をお使いください。

《Windows NT 4.0 Service Packの判別方法と入手》

Windows NT 4.0で30Gバイト以上の本製品を使用するには、Windows NT 4.0 Service Pack 4以上が必要です。

（詳細は、Microsoft社にご確認ください。）

1. 『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』の「ﾍﾙﾌﾟ」をクリックし、メニュー内の「ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ表示」をクリックしてください。
2. 表示される「Version 4.0 (Build 1381: Service Pack X)」のXが4以上であることを確認してください。4以上であれば、Windows NT 4.0 Service Pack 4以上がインストールされています。

   4以上でなければ、以下のMicrosoft社のホームページ等から入手してください。

   http://www.microsoft.com/japan/

SCSIインターフェイス

SCSIインターフェイスがパソコンに標準装備されている場合
他のインターフェイスをご使用になりたい場合は、標準装備されているSCSIインターフェイスを取り外して（または無効にして）ください。
推奨・対応SCSIインターフェイスについて
「推奨」は弊社にて動作確認されたUltra SCSIインターフェイスです。
「対応」は弊社にて動作確認されたSCSI-2/SCSIインターフェイスです。
推奨・対応SCSIインターフェイスをお使いの場合
【対応表】(139ページ)にて本製品のモード設定案を紹介しています。
推奨・対応SCSIインターフェイス以外をお使いの場合
本製品の容量（マルチドライブモードでお使いの場合は、ドライブの容量）にお使いのSCSIインターフェイスが対応しているかどうかをご確認ください。
お使いのSCSIインターフェイスが対応している容量については、各SCSIインターフェイスのメーカーにお問い合わせください。
Apple Macintoshでお使いの場合
- Apple Macintoshの標準SCSIポートやSCSI-2インターフェイスで使用される場合は、本製品をUltra SCSIの性能ではご利用いただけません。
- Apple Macintoshの標準SCSIポートがない機種では、別途SCSIインターフェイスが必要です。

● PC98-NXシリーズ,DOS/VマシンおよびPC-9800シリーズ

推奨	「SC-UPCIシリーズ※1」,「SC-NBUN※3,4,5」,「CBSC IIシリーズ※3,4,6」
対応	「SC-NBPCI※3,4」,「PCSC-Fシリーズ※3,4,6」,「SC-98IIIシリーズ※2」,「SC-PCI※1」

※1 SC-UPCI,SC-PCIをお使いの場合は、次ページの【SC-UPCIまたはSC-PCIをお使いの場合】も合わせてお読みください。
※2 13Gバイト以上の本製品は使用できません。
※3 添付の「B'sCrew for Windows」は使用できません。
※4 各製品に付属のASPIFORM.EXEでフォーマットする必要があります。
※5 次ページの【SC-NBUNをご使用の場合】も合わせてお読みください。
※6 Windows上からASPIFORM.EXEでマルチドライブモードの片方のドライブを物理フォーマット中にもう片方のドライブにアクセスしないでください。
また、物理フォーマットを行う際には、ハードディスクにアクセスするような常駐ソフト（ウィルススキャンソフトなど）は外しておいてください。

● Macintosh

推奨	「SC-APU」,「SC-APUS」,「SC-APUN」

SC-UPCIまたはSC-PCIをお使いの場合

●**SC-PCIが、Windows 98/95およびMS-DOS(PC DOS)にて認識できる最大容量は8Gバイトです。**

13Gバイト以上の本製品をお使いの場合は、通常マルチドライブモードでお使いください。（ただし、20Gバイト以上の本製品では全容量をお使いいただけません。また、40Gバイト以上の本製品はお使いいただけません。）

●**SC-UPCI,SC-PCIのバージョンを確認してください。**

SC-UPCIシリーズのBIOSのバージョンが1.03(サポートソフトver1.03)以上、またはSC-PCIのBIOSのバージョンが1.04(サポートソフトver1.13)以上であることを確認してください。
それ未満の場合は、必ずBIOSのバージョンアップを行ってください。

SC-UPCI,SC-PCIのBIOSバージョンの確認方法

パソコン起動時に画面に表示されます。
この画面でお分かりにならない場合は、「SC-UPCI(SC-PCI)シリーズ取扱説明書」をご覧になり、「BIOS設定」メニューで「ハードウェア情報」を表示し、「BIOSバージョン」を確認してください。

SC-UPCIのBIOSのバージョンアップ方法

SC-UPCIの取扱説明書に従って、バージョンアップします。SC-UPCI取扱説明書【BIOSのバージョンアップ】またはSC-UPCIシリーズ取扱説明書【SC-UPCIシリーズのBIOSをアップデート（更新）するには】をご参照ください。

SC-PCIのBIOSのバージョンアップ方法

SC-PCI取扱説明書に従って、バージョンアップします。SC-PCI取扱説明書【フラッシュメモリへのBIOS書き込み】をご参照ください。

SC-NBUNをご使用の場合

●**SC-NBUNシリーズサポートソフトでSC-NBUNをお使いの場合は**

SC-NBUNシリーズサポートソフトでお使いの場合は、SC-NBUNシリーズ取扱説明書の【ドライバソフトをアップデート(更新)するには】をご覧になって、SC-NBシリーズサポートソフトのバージョン 1.00以降にてドライバのアップデートをしてください。

ユーザー登録しよう

本製品のユーザー登録について

1 「ハードウェアシリアルNo.シール」を所定の位置に貼ります。

添付のハードウェアシリアルNo.シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ってください。

2 ユーザー登録を行います。

ユーザー登録にはオンライン登録と、ハガキ登録の2通りがあります。

●オンライン登録(インターネット http://www.iodata.co.jp/)

I-O DATA ホームページに「オンライン・ユーザー登録」ボタンが用意されています。このボタンをクリックするとオンライン登録の案内が表示されますので、画面の表示にしたがって必要事項を記入して、ユーザー登録を行ってください。

オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

●ハガキ登録

ユーザー登録カードに、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。

ユーザー登録に関する注意

- **弊社では、サポートセンターでソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っておりますが、これらのサービスはユーザー登録を行った方のみが対象となります。お買い上げいただいた製品ごとに必ず登録してください。**
- **ハガキ登録の場合、必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できません。必ずご確認ください。**

B'sCrew for Windowsのユーザー登録について

添付のビー・エイチ・エー社 B'sCrew for Windowsセットの中にある「ビー・エイチ・エー社ユーザー登録ハガキ」にてユーザー登録をしてください。

取り扱いおよび使用上の注意

添付の『安全で快適にお使いいただくために』もあわせてご覧ください。
また、「B'sCrew for Windows＋Super Multi Drive設定ユーティリティ」CD-ROM内の「README.TXT」（Windowsの場合）もしくは「はじめにお読みください」（Macintoshの場合）を必ずご覧ください。

● 使用する際の注意

・定期的にバックアップしてください。

ハードディスクは消耗品です。記録されたデータやプログラムファイルは、誤動作や故障等によって破壊された場合、復旧することができません。なお、消失したデータなどの保証は、一切いたしかねますので、ご了承ください。

●取り扱い上の注意

以下の事項を守らないと火災・感電・動作不良の原因になります。

●濡れた手などで本製品を取り扱わないでください。
●本体の汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れを落とす場合は、ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
●高温、多湿、低温の場所に放置しないでください。
●コネクタ部分に金属を差し込まないでください。

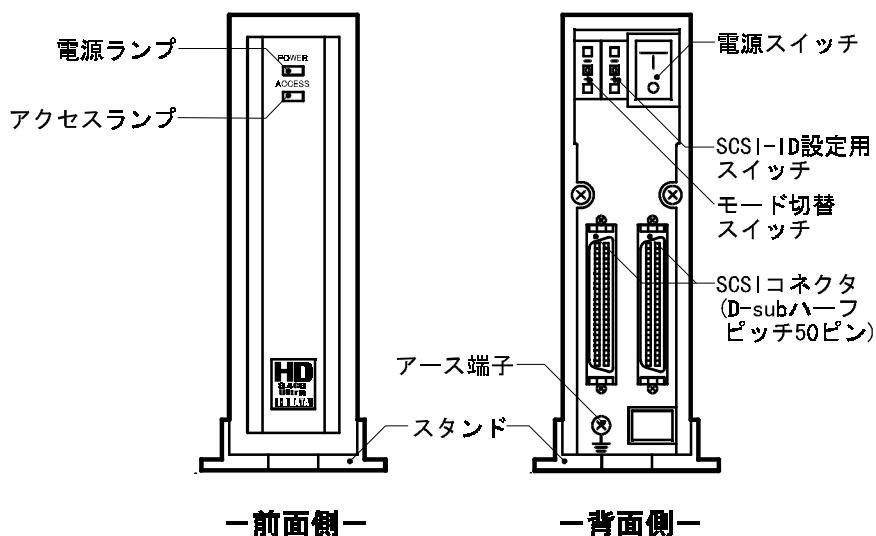
●本製品の点検・修理は弊社修理係にご依頼ください。

【修理について】(162ページ)参照。

取り付けよう

各部の名称・機能	本製品のスイッチなどの名前と機能を説明します。(14ページ)
▼	
添付品を取り付けよう	添付品を本製品に取り付ける方法について説明します。(15ページ)
▼	
使うモードを決めよう	本製品のモードについて説明します。(17ページ)
▼	
本製品を設定しよう	添付品を本製品に取り付ける方法について説明します。(22ページ)
▼	
接続しよう	添付品を本製品に取り付ける方法について説明します。(25ページ)
▼	
マルチドライブモードをお使いの方へ	マルチドライブモードで本製品をお使いの場合にできることについて説明しています。(28ページ)
▼	
状態を確認しよう	接続・設定の確認方法を説明します。(29ページ)
▼	
お使いのパソコンは?	次にどこを読むかを説明します。(31ページ)

各部の名称・機能

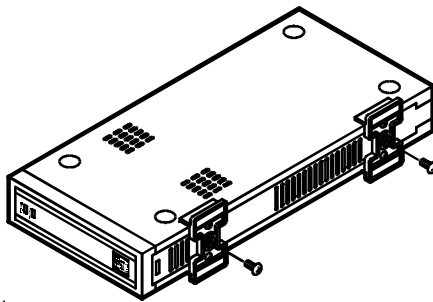
電源ランプ
POWER
ACCESS
アクセスランプ
HD
I-O DATA
電源スイッチ
SCSI-ID設定用
スイッチ
モード切替
スイッチ
SCSIコネクタ
(D-subハーフ
ピッチ50ピン)
アース端子
スタンド
スタンド
ー前面側ー
ー背面側ー

添付品を取り付けよう

ここでは、本製品に取り付け可能な添付品（スタックアダプタ）の取り付けについて説明します。

● **縦置きで使う場合 ⇒ 本製品をそのままお使いください**

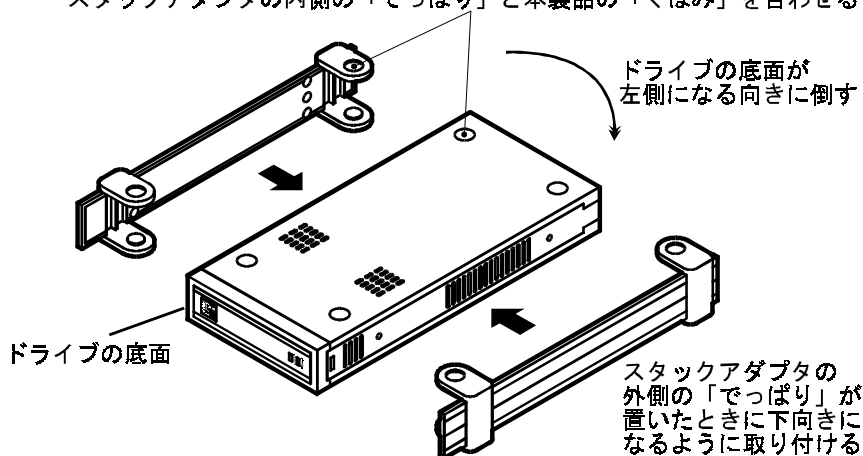
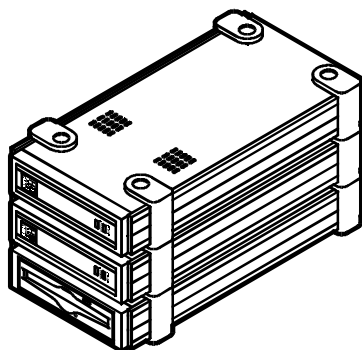
● **横置きで使う場合 ⇒ スタックアダプタを取り付ける**

1 スタンドを取り外します。

スタンドの真ん中のネジだけを外して、スタンドを取り外します。

取り外したネジ・スタンドについて

- **取り外したネジは、スタンドを外した状態で元に戻さないでください。**
- **取り外したネジ・スタンドは、紛失しないように大切に保管してください。**

2 スタックアダプタを取り付けます。

本製品をドライブの底面が左側にくるように倒します。
その後、下の図をご覧になり、スタックアダプタを取り付けます。

3 このように重ねて使う事が出来ます。

積み重ねる際に

- ドライブを積み重ねてご使用になる場合は、ストーブなどの発熱体から離れた場所に設置してください。（動作環境：温度+5～+35℃）
- 積み重ねるドライブ台数は３台までとしてください。
- MOドライブは最下段に置いてください。
- ドライブを積み重ねて使用する時に短いケーブルが必要な場合は、別途オプション品（弊社製「A50-A50-SS:10cm」等）をお買い求めください。

使うモードを決めよう

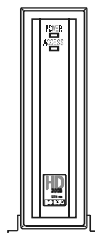
ここでは、本製品のモードについて説明しています。

モードとは？

本製品には、「ノーマルモード」と「マルチドライブモード」の２つがあります。

●ノーマルモード（出荷時設定）

本製品を１台のハードディスクとしてお使いになるためのモードです。
マルチドライブモードの機能（次ページ）をとくに必要としない方は、
こちらのモードをお使いになることをおすすめします。

例えば、HDVS-UM30Gの場合、30Gバイトのハードディスクとなります。

ノーマルモードの利点

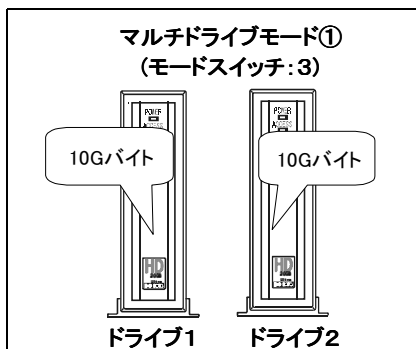
- **本製品を１台のハードディスクとして使うので、マルチドライブモードに設定する手間がいらなくなります。**
- **出荷時設定なので、モードを変更する必要がありません。**

Super Multi Drive設定ユーティリティについて

本製品をさらに便利に使うためのユーティリティです。
Windows 98/95,Windows 2000,Windows NT 4.0,MS-DOS(PC DOS),漢字Talk, Mac OSでお使いいただけます。詳しくは91ページをご覧ください。

●マルチドライブモード

本製品を２台のハードディスク（ドライブ）のようにお使いになるためのモードです。
分割した２つのドライブはそれぞれ「ドライブ１」、「ドライブ２」と呼称します。

例えば、
HDVS-UM20G（容量20Gバイト）を「マルチドライブモード①」に設定すると、２つに等分割（10Gバイトづつ）されたハードディスクとして使用できます。
※ 本項の図はイメージ図です。

マルチドライブモードの利点
- **２つのドライブの順番を入れ替えることができます。**
  ⇒認識する順番が変わるので、マルチOSに便利です。
- **片方を隠し、もう片方のみを使うことができます。**
  ⇒大事なデータを入れて、普段は隠しておけばデータを守るのに便利です。
- **Super Multi Drive設定ユーティリティを使えば、ドライブの容量分割比率(初期設定では各50%)を変更することができます。**
  ⇒ノーマルモードでは本製品の全容量を使えない環境でも、マルチドライブモードを使えば全容量を使える場合があります。
  （【対応について】(20ページ)）

Super Multi Drive設定ユーティリティについて
本製品をさらに便利に使うためのユーティリティです。
Windows 98/95,Windows 2000,Windows NT 4.0,MS-DOS(PC DOS),漢字Talk,Mac OSでお使いいただけます。詳しくは91ページをご覧ください。

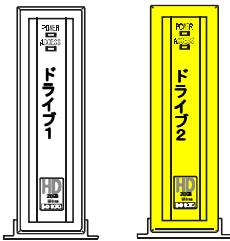
また、マルチドライブモードでは、モードスイッチによって２つのドライブの順番を入れ替えたり、片方のドライブだけを使用して、もう片方のドライブを隠したりすることができます。

※ 本項の図はイメージ図です。

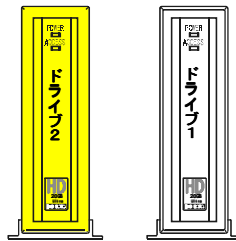
・２つのドライブとして使う場合 (マルチドライブモード①,②)

※マルチドライブモード①と②では、「ドライブ１」と「ドライブ２」でパソコンに認識される順番が異なるだけです。

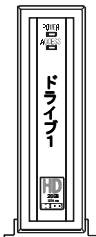
マルチドライブモード①

（モードスイッチ：3）

ドライブ1、2の順でパソコンが認識

マルチドライブモード②

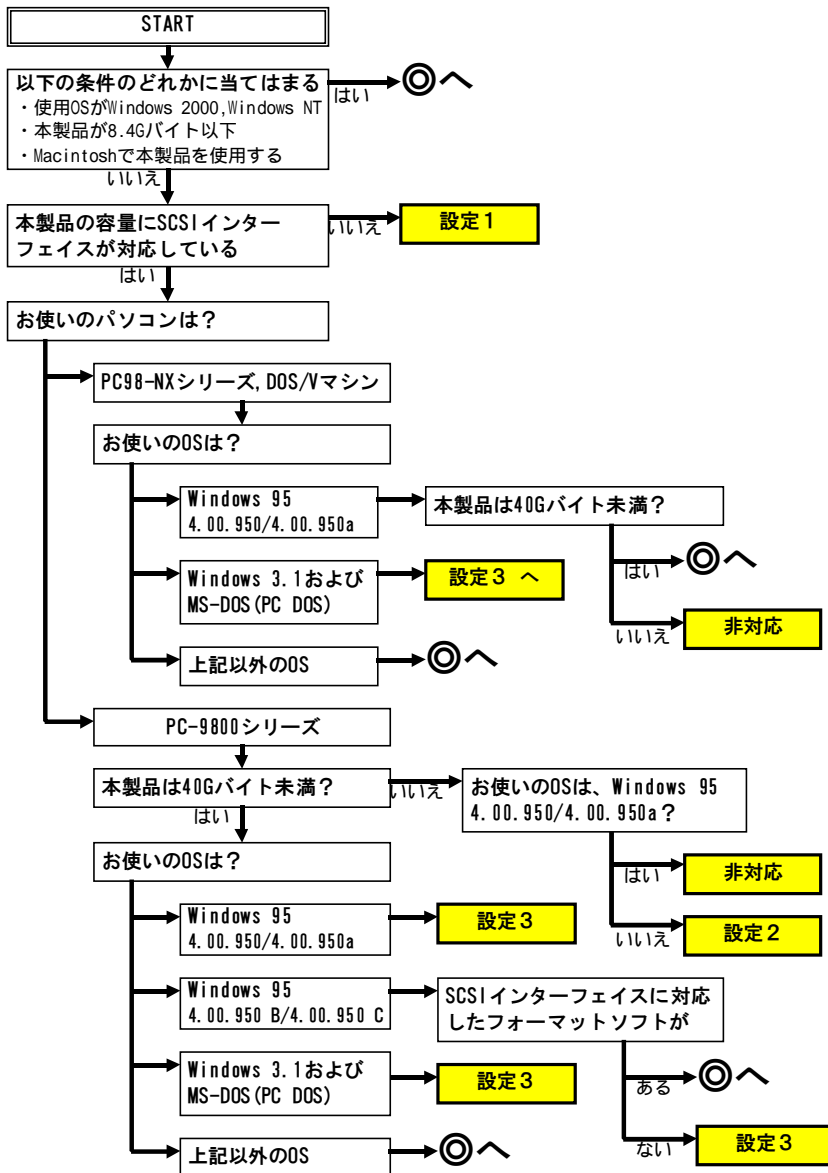
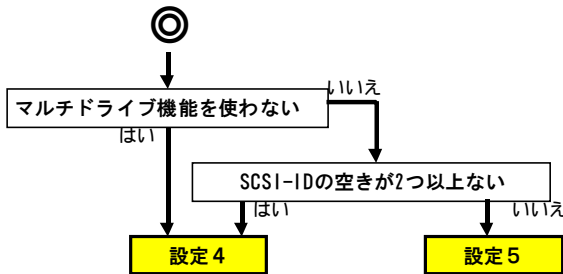
（モードスイッチ：4）

ドライブ2、1の順でパソコンが認識

・片方だけを使用してもう一方を隠す場合 (マルチドライブモード③,④)

※マルチドライブモード③では、「ドライブ１」のみ使用できます。
（「ドライブ２」を隠します。）
※マルチドライブモード④では、「ドライブ２」のみ使用できます。
（「ドライブ１」を隠します。）

ドライブ1のみ使用

ドライブ2のみ使用

対応について

推奨・対応SCSIインターフェイスをお使いの方へ
【対応表】(139ページ)も合わせてご覧ください。

設定１

・本製品の半分の容量にSCSIインターフェイスが対応している場合
「マルチドライブモード」に設定すれば、本製品の全容量をお使いいただけます。

・本製品の半分の容量にSCSIインターフェイスが対応していない場合
対応している容量までは使えるSCSIインターフェイスの場合
「マルチドライブモード」に設定すれば、本製品をお使いいただけますが、本製品の全容量はお使いいただけません。

対応している容量を超えると使えないSCSIインターフェイスの場合
「マルチドライブモード」で片方のドライブをSCSIインターフェイスの対応容量ぎりぎりまでに設定し、そのドライブのみをお使いください。

設定２

「マルチドライブモード」にのみ対応です。
各ドライブの容量が約32Gバイトを超えないように設定してください。

設定３

通常、同時にアクティブにできるパーティションは４つまでです。
従って、通常は「マルチドライブモード」で片方のドライブを約8Gバイトに設定してお使いください。20Gバイト以上の本製品をお使いの場合は、もう片方のドライブは他のOSでお使いください。

設定４

「ノーマルモード」でお使いいただけます。
ただし、PC-9800シリーズにて40Gバイト以上の本製品をお使いの場合は、【設定２】となります。

設定５

「マルチドライブモード」でお使いいただけます。
ただし、PC-9800シリーズにて40Gバイト以上の本製品をお使いの場合は、【設定２】となります。

非対応

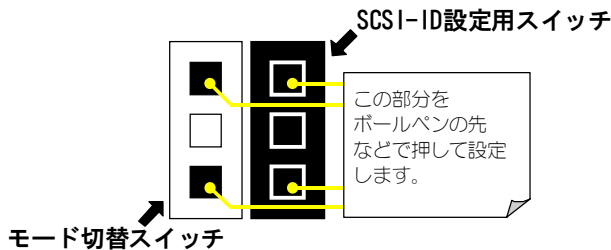
40Gバイト以上の本製品は、Windows 95 4.00.950/4.00.950aには非対応です。
現在の環境ではお使いいただけません。

本製品を設定しよう

ここでは、本製品のモードおよびSCSI-IDの設定について説明します。
本製品のモードおよびSCSI-IDの設定は、使うモードによって異なります。

使うモードを決めてください
ここを読む前に、必ず【使うモードを決めよう】(17ページ)をご覧になり、使うモードを決めてください。

スイッチの設定方法
モード切替スイッチ・SCSI-ID設定用スイッチを設定する際は、パソコンおよび本製品の電源を切り、設定してください。

SCSI-ID設定用スイッチ
この部分をボールペンの先などで押して設定します。
モード切替スイッチ

●ノーマルモード

モード切替スイッチ
「0(出荷時設定値)」
SCSI-ID設定用スイッチ
「空いているSCSI-IDの値」

●マルチドライブモード

モード切替スイッチ
通常は「3」、
「ドライブ1」のみを使うなら「5」、
「ドライブ2」のみを使うなら「6」
SCSI-ID設定用スイッチ
「2連続で空いているSCSI-IDの小さい方の値」

※SCSI-IDをドライブ毎に使用するため、通常SCSI-IDは2つ必要です。

SCSI-ID設定用スイッチ	0	1	2	3	4	5	6	7
使用するSCSI-ID	0,1	1,2	2,3	3,4	4,5	5,6	設定不可	設定不可

他のSCSI機器が使用するSCSI-IDについて

- SCSIインターフェイスのSCSI-IDには通常「7」が使用されていますので、「7」には設定しないようにしてください。
- PC-9800シリーズでMOドライブをご使用の場合、MS-DOSやWindows 98/95で640Mバイトおよび1.3GバイトのMOディスクを使用する際に、SCSI-IDに関する制限がありますので、ご注意ください。詳細については、MOドライブの取扱説明書をご覧ください。
- Apple Macintoshをお使いの場合、既にSCSI-IDの0,3,7が使用されている場合があります。また通常、内蔵のSCSI機器のSCSI-IDは変更できません。マルチドライブモードでご使用の場合は、特にSCSI-IDが重複しないようにご注意ください。(次ページの【● Macintoshが既に使用しているSCSI-ID】も参照してください。)

すでに別のモードでお使いの場合

「ノーマルモード」から「マルチドライブモード」に変えたり、その逆に「マルチドライブモード」から「ノーマルモード」に変えようとするときは、【ノーマル⇔マルチドライブで切り替える】(151ページ)をご覧ください。

● Macintoshシリーズが既に使用しているSCSI-ID

[デスクトップ]

使用済みSCSI-ID	機 種 名
7※1	PowerMacintosh G3 DTｼﾘｰｽﾞ,MTｼﾘｰｽﾞ PowerMacintosh 9600,9515,9500,8600,8515,8500,8115, 8100,7600,7500,7300,5500,4400 twentieth anniversary Macintosh Quadra 950,900 LC630※2
0、7	Quadra 800※2,700 Centris 650※2,610※2 Macintosh IIｼﾘｰｽﾞ(IIを除く,またvi,vxはCDなしモデルの場合) LC II,III,475 Performa 275 Color Classic I,II SE/30 Classic II
3、7	PowerMacintosh 6300,6200 LC630※3 Performa 6000ｼﾘｰｽﾞ,5000ｼﾘｰｽﾞ,630,588
0、3、7	PowerMacintosh 7215,7200,7100,6100 Quadra 840AV,800※3,660AV,650,610 Centris 650※3,610※3 Macintosh II vi※3,vx※3 Performa 575,550,520 LC575,520

※1…………Zipドライブを搭載している場合は、さらにSCSI-IDの５を使用します。
※2…………CD-ROMドライブなしのモデル
※3…………CD-ROMドライブ搭載モデル

> Power Macintosh G3(Blue and White),Power Macintosh G4で、SCSIインターフェイスを取り付けた場合は、SCSIインターフェイスでSCSI-IDを1つ使用します。
> 弊社製 SC-APシリーズおよびSC-APUNシリーズの場合は、SCSI-ID=「7」を使用します。

[PowerBook（ノート）]

使用済みSCSI-ID	機 種 名
7	PowerBook G3ｼﾘｰｽﾞ※4 PowerBook G3/250,3400,2400,1400,1000,190
0、7	PowerBook Duoｼﾘｰｽﾞ (別途SCSIポートのあるﾄﾞｯｷﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝが必要) PowerBook 500ｼﾘｰｽﾞ,100ｼﾘｰｽﾞ (100,190を除く)

※4…………標準SCSIポート搭載機種のみ対応。

接続しよう

お手持ちのSCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照になり、先にSCSIインターフェイスの設定を行っておいてください。

SCSIの制限にお気を付けください
お使いのSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になり、接続可能台数や接続SCSI機器の接続ケーブル長の制限を超えていないことをご確認ください。

SCSIケーブルやターミネータをSCSIコネクタに接続するときは
SCSI接続ケーブルやターミネータをSCSIコネクタに接続するときは、まっすぐに接続してください。無理な角度で接続するとピンが折れる場合があります。接続の際は「カチッ」と音がするまで差し込み、軽く引っ張っても抜けないことをご確認ください。

本製品以外にもSCSI機器をお使いの場合は
本製品を接続する際には、なるべくターミネータに近い位置に接続してください。
ターミネータに一番近いところに接続できない場合は、できるだけ短いケーブル（弊社製 A50-A50-S(30㎝),A50-A50-SS(10㎝)など）をお使いください。

1 SCSIインターフェイスを使えるようにします。

SCSIインターフェイスが使えるようになっていることを確認します。
SCSIインターフェイスが使えるようになっていない場合は、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照になり、先にSCSIインターフェイスの設定を行ってください。

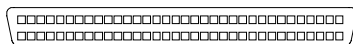
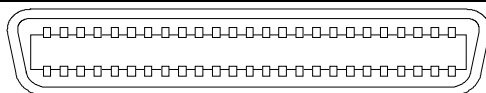
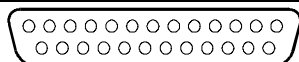
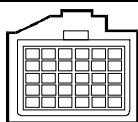
2 SCSI機器に接続する場合は、ターミネータを取り外します。

本製品を接続済みのSCSI機器に接続する場合は、そのSCSI機器のSCSIコネクタに接続されているターミネータを取り外します。

3 SCSIコネクタにSCSI接続ケーブルを接続します。

SCSIインターフェイスもしくはSCSI機器のコネクタ形状により、使用できるSCSIケーブルが異なります。次ページをご覧になり、SCSIコネクタにあったケーブルをお使いください。

本ページのコネクタ図はほぼ実物大です。
実際に接続するSCSIコネクタと見比べてお使いください。

コネクタ	使用ケーブル
(D-subハーフピッチ50ピン)	本製品に添付のSCSI接続ケーブルをお使いください。
(D-subハーフピッチ68ピン)	本製品に添付のSCSI接続ケーブルとAD-SC/AW(D-subハーフピッチ50ピン⇒D-subハーフピッチ68ピン変換コネクタ)をお使いください。
(アンフェノールハーフピッチ50ピン)	A50-H50など(D-subハーフピッチ50ピン⇔アンフェノールハーフピッチ50ピン)をお使いください。
(アンフェノールフルピッチ50ピン)	F50-A50など(アンフェノールフルピッチ50ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン)をお使いください。
(D-sub25ピン)	お使いのSCSIインターフェイスに添付のSCSI接続ケーブル、またはお使いのSCSIインターフェイスの別売オプション品をお使いください。
(HDI30ピン)	AP30-A50など(HDI30ピン⇔D-subハーフピッチ50ピン）をお使いください。
(その他)	お使いのSCSIインターフェイスに付属しているSCSI接続ケーブル、もしくはお使いのSCSIインターフェイスの別売オプション品をお使いください。

案内されている弊社製SCSI接続ケーブル以外を使う場合

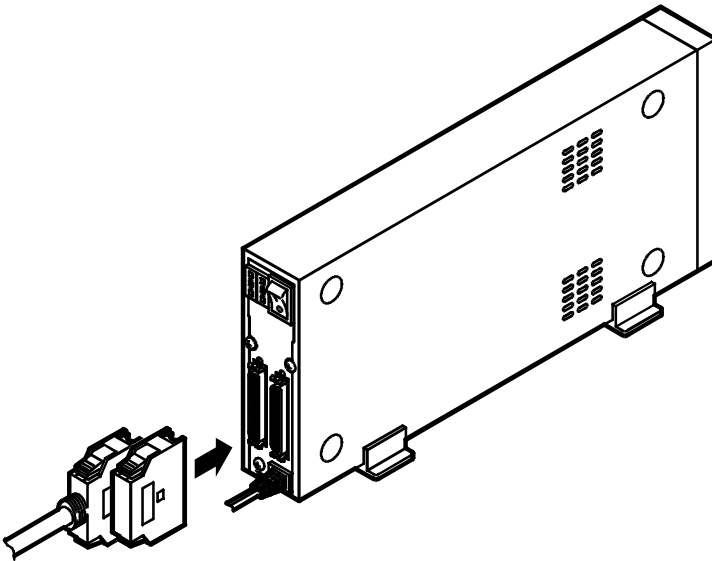
お使いになるSCSI接続ケーブルは、片方はSCSIインターフェイスや本製品の前にあるSCSI機器のコネクタの形状に、もう片方はD-subハーフピッチ50ピンのSCSIコネクタに接続できるものを選んでください。

4 本製品のSCSIコネクタにSCSI接続ケーブルを接続します。

手順*3* で接続したSCSI接続ケーブルのもう一方を、本製品のSCSIコネクタに、まっすぐに差し込みます。（左右どちらのSCSIコネクタでも可）

5 本製品のもう片方のSCSIコネクタにターミネータを接続します。

本製品にあるもう一方のコネクタに、ターミネータをまっすぐに差し込みます。

ターミネータについて
本製品に接続するターミネータには「アクティブ・ターミネータ」をお使いください。

6 ACプラグを電源コンセントに接続します。

マルチドライブモードをお使いの方へ

ここでは、マルチドライブモードで本製品をお使いの場合に、本製品のドライブ分割比率を変更できることについて説明しています。

ノーマルモードで本製品をお使いの方は

ここでは、マルチドライブモードで本製品をお使いの方に対して説明しています。ノーマルモードで本製品をお使いの場合は、次ページの【状態を確認しよう】へお進みください。

ドライブ分割比率を変更する

マルチドライブモードの分割比率は、出荷時では50:50に設定されています。

しかし、Super Multi Drive設定ユーティリティを使えば、マルチドライブモードのドライブ分割比率を変更することができます。

「ドライブ分割比率を変更したい人」や「ドライブ分割比率を変更しないと本製品を使えない人」がお使いいただけると便利です。

詳しくは、【Super Multi Drive設定ユーティリティ】(91ページ)をご覧ください。

状態を確認しよう

本製品を接続した後、接続・設定が正しく行われているかどうかを確認します。

本製品を接続したパソコンを起動する

パソコンの起動方法について
ここで説明している方法は、一般的なSCSIインターフェイスのものです。SCSI PCカードなど起動方法が異なるものもあります。詳しくはSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

1 本製品を含むSCSI機器の電源を入れます。

2 パソコンの電源を入れます。

3 起動途中にデバイススキャンを確認します。

パソコンが起動する途中で、SCSIインターフェイスが接続しているSCSI機器を画面に表示します。そこに本製品の名称が表示されているかどうかを確認します。
SCSIインターフェイスによっては、デバイススキャンされないことがあります。その場合は、この手順は飛ばしてください。

本製品の表示
ノーマルモードの場合…………「HDVS-UMxxG」
マルチドライブモードの場合
ドライブ１…………「HDVS-UMxxG-1」
ドライブ２…………「HDVS-UMxxG-2」
※ 「xxG」には本製品の容量が入ります。

本製品の状態を確認する

PC98-NXシリーズ、DOS/VマシンおよびPC-9800シリーズの場合

お使いのSCSIインターフェイスのBIOSメニューや添付ソフトにベリファイテストがあるかどうかを確認してください。

●ベリファイテストがある場合(弊社製 SC-UPCIシリーズなど)

お使いのSCSIインターフェイスの取扱説明書を参照して、ベリファイテストをしてください。

> **弊社製 SC-UPCIの場合**
> **サポートディスクでの「ディスクユーティリティ」の［ディスクデータのベリファイ］を実行してください。**

●ベリファイテストがない場合
(弊社製 PCSC-Fシリーズ,CBSCⅡシリーズ,SC-NBPCI,SC-98Ⅲシリーズなど)

・Windows 98/95,Windows 2000をお使いの場合

本製品をフォーマット後、Windowsの「スキャンディスク」(「チェック方法」は［完全］を選択)してください。

・Windows NTをお使いの場合

Windows NT上で本製品をフォーマットする際に、ベリファイテストが行われています。特に作業は必要ありません。

・Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)をお使いの場合

本製品をフォーマット後、MS-DOSの「SCANDISK」を実行してください。

Macintoshの場合

お使いのフォーマットユーティリティの取扱説明書を参照して、ベリファイテストをしてください。

お使いのパソコンは？

本製品は、フォーマットしないと使うことができません。
フォーマット方法は、お使いのパソコンによって異なります。
本製品をまだフォーマットしていない場合は、お使いのパソコンにあった場所をお読みください。

マルチドライブモードをお使いの方へ
ここで説明している方法は、一般的なSCSIインターフェイスのものです。SCSI PCカードなど起動方法が異なるものもあります。詳しくはSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

● PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンをお使いの場合

⇒【PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンをお使いの場合】(33ページ)をお読みください。

● PC-9800シリーズをお使いの場合

⇒【PC-9800シリーズをお使いの場合】(59ページ)をお読みください。

● Macintoshをお使いの場合

⇒【Macintoshをお使いの場合】(79ページ)をお読みください。

PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンをお使いの場合

マルチドライブモードをお使いの場合は
「ドライブ１」、「ドライブ２」の２つともにフォーマットをする必要があります。

パーティション最大容量の制限について

パーティションの最大容量の制限について説明します。（34ページ）

▼

フォーマット手順の概要

フォーマット手順の概要を説明します。（35ページ）

Windows 98/95でフォーマットしよう

Windows 98/95でのフォーマット方法について説明します。（36ページ）

Windows 2000でフォーマットしよう

Windows 2000でのフォーマット方法について説明します。（45ページ）

Windows NTでフォーマットしよう

Windows NTでのフォーマット方法について説明します。（57ページ）

Windows 3.1,DOSでフォーマットしよう

Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)でのフォーマット方法について説明します。（58ページ）

パーティション最大容量の制限について

OSにより１パーティションに割り当てられる最大容量に制限があります。

フォーマッタソフトやフォーマットコマンドでパーティションのサイズ（容量）を設定することができますが、使用するOSによって最大容量に制限があります。（以下の【●OS毎の１パーティションの最大容量】参照）

※Windows 95ではバージョンによっても制限があります。（バージョンの確認方法は【Windows 95/バージョンの確認方法】(7ページ)参照）

最大容量を超える容量は、いくつかのパーティションに分割して使用することになります。

●OS毎の１パーティションの最大容量

OS	1パーティションの最大容量
Windows 98(FAT32使用時)	2Tバイトまで
Windows 95(FAT32使用時) (4.00.950 B/4.00.950 C)	2Tバイトまで
Windows 95(FAT16使用時) (4.00.950/4.00.950a/4.00.950 B/4.00.950 C)	2,047Mバイトまで
Windows 2000(NTFS使用時)※1	408,000,000Tバイトまで
(FAT32使用時)※1	32Gバイトまで※2
(FAT16使用時)	4,095Mバイトまで
Windows NT(NTFS使用時)	408,000,000Tバイトまで※3
(FAT使用時)	4,095Mバイトまで
MS-DOS(PC DOS) Ver 5.0(/V)以降	2,047Mバイトまで

※1 起動領域に設定できる容量はSCSIインターフェイスが対応している容量までです。

※2 Windows 98などの他のOSにて作成した2Tバイトまでのパーティションを使うことはできます。

※3 起動領域に設定できる容量は4,095Mバイトまでです。

1Tバイト＝1,000Gバイト＝1,000,000Mバイト
1Gバイト＝　　1,000Mバイト

フォーマット手順の概要

フォーマットはすべてのハードディスクに対して行うことができます。

・本製品以外のハードディスクをフォーマットしないよう充分ご注意ください。
・フォーマットやその他の動作で本製品のアクセス中は、絶対にパソコンの電源を切ったり、パソコンをリセットしたりしないでください。

●フォーマット手順はOSによって異なる

フォーマット手順はOSにより異なります。
また、使用しているOSなどにより、制限事項等があります。
【パーティション最大容量の制限について】(34ページ)および【パーティションについて】(148ページ)を確認した後、以下の各OS毎の手順を参照してください。

・Windows 98/95の場合
【Windows 98/95でフォーマットしよう】(36ページ)

・Windows 2000の場合
【Windows 2000でフォーマットしよう】(45ページ)

・Windows NTの場合
【Windows NTでフォーマットしよう】(57ページ)

・Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)の場合
【Windows 3.1,DOSでフォーマットしよう】(58ページ)

Windows 98/95でフォーマットしよう

ここでは、弊社製SC-UPCIシリーズ,SC-PCIに接続した本製品をWindows 98/95でフォーマットする方法について説明します。

弊社製 SC-UPCIシリーズ, SC-PCIでお使いの場合	**以下をご覧ください。**
弊社製 PCSC-Fシリーズ, CBSCⅡシリーズ, SC-NBUN, SC-NBPCIでお使いの場合	**フォーマット方法については、各取扱説明書をご覧ください。 ここで紹介している方法ではフォーマットできません。**
他社製などのその他のSCSIインターフェイスでお使いの場合	**各取扱説明書をご覧ください。**

本製品をフォーマットするには、下の２つの方法があります。

- **「FDISK」を使ってフォーマットする方法**

  Windows 98/95の「Command Prompt Only」上で「FDISK」を使って領域確保後、Windows 98/95上でフォーマットする方法です。

- **「B'sCrew for Windows」を使ってフォーマットする方法**

  Windows 98/95上で「B'sCrew for Windows」を使ってフォーマットする方法です。「B'sCrew for Windows」を使う方法の詳細については、「B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル」をご覧ください。

> **ドライブ名変更に関する注意**
> **他のハードディスクに「拡張MS-DOS領域」がある場合、本製品をこの方法でフォーマットすると、「基本MS-DOS領域」を作ってしまうため、ドライブ名が入れ替わります。（詳細は、【パーティションについて】(148ページ)参照）**

ここでは、「FDISK」を使ってフォーマットする方法について説明しています。

FDISKを起動する

1 パソコンを「Command Prompt Only」で起動します。

Windows 98：[Ctrl]キーを押したままパソコンを起動します。
メニューから、「Command prompt only」を選択します。
（メニューが表示されない場合は、パソコン起動中に[Ctrl]キーを押したり放したりを繰り返してみてください。）

Windows 95：パソコンを起動し、「Starting Windows 95」と表示されたら、[F8] キーを押し、すぐに離します。
メニューから「Command prompt only」を選択します。

キーを押したままでいると「ピピーッ」と音がなる場合には
一度パソコンを起動させ、Windowsのロゴが表示されるタイミングをはかります。その後、パソコンを再起動し、Windowsのロゴが表示される約1秒前より [Ctrl] キーを押し続けてください。

FDISKを起動する際には
必ず上の手順にて「Command Prompt Only」を起動してください。
Windowsの「MS-DOSプロンプト」上でFDISKを使うと、パーティションが消えるなどの誤動作の原因となります。

2 FDISKを起動します。

「FDISK」と入力し、↵キーを押します。

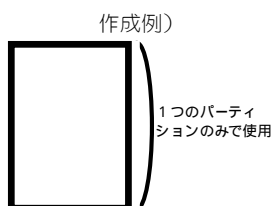
3 下の画面が表示されます。

次ページの表をご覧になり、「Y」もしくは「N」と入力して、↵キーを押します。

下の画面が表示されない場合
Windows 95のバージョン 4.00.950/4.00.950aをお使いの場合は表示されません。読み飛ばして次ページの手順4へお進みください。
（【Windows 95バージョンの確認方法】（7ページ）参照）

```
512 MB以上のディスクがあります．このバージョンのWindowsでは，大容量のディスク
のサポートが強化され，ディスク領域を有効に使えるようになりました．2 GB以上の
ドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます．

重要 : 大容量ディスクのサポートを使用可能にして，このディスクに新しいドライブ
を作成した場合，ほかのオペレーティング システムを使ってこの新しいドライブに
アクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン，
以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）．また，FAT32ファイルシステム
用に設計されていないディスクユーティリティは，正常に動作しません．
このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティ
にアクセスする必要がある場合，大容量ドライブのサポートは使用しないでください．

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)...........? [Y]
```

「Y」を入力する場合

例）・本製品の全容量を1つのパーティションで使用する場合
・2047Mバイト以上のパーティションを作成したい場合

作成例）

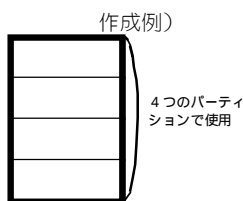
1つのパーティションのみで使用

「Y」を入力し、パーティションを作成すると、Windows 95 4.00.950/4.00.950a,Windows NT,MS-DOSなどのOSからアクセスできなくなります。

「N」を入力する場合

例）Windows 95 4.00.950/4.00.950a、Windows NT、MS-DOSなどのOSと共用する場合

作成例）

4つのパーティションで使用

1パーティションの最大容量は、2,047Mバイトとなります。
本製品を複数のパーティションに分割して使用することとなります。

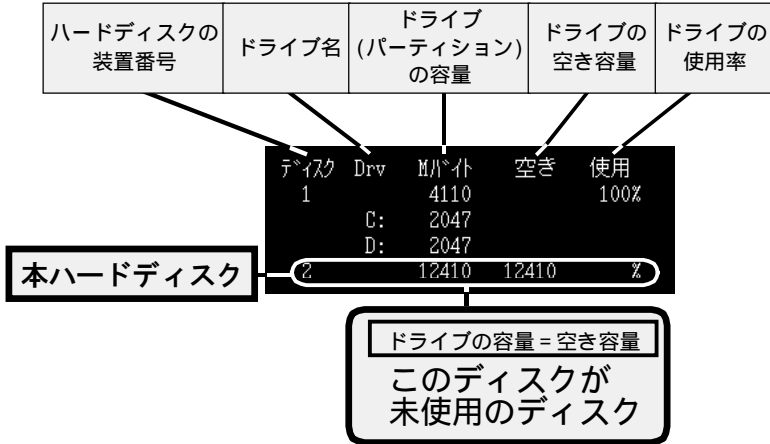
本製品を選択する

4 「現在のハードディスクドライブを変更」を選びます。

「5」を入力し、↵キーを押します。

「5」（現在のハードディスクドライブを変更）の表示がない場合
本製品が正しく接続されていない可能性があります。
[ESC]キーでFDISKを終了し、再度、ケーブルなどを確認してください。
（【取り付けよう】（13ページ）参照）

5 本製品を選択します。

ドライブの容量とドライブの空き容量が同じであるハードディスクが本製品です。その数字を入力して、⏎キーを押します。

●Windows 95 4.00.950/4.00.950aのバージョンをお使いの場合
全容量の表示が、全容量の上4桁しか表示されませんが、設定には問題ありません。（表示だけの問題です。）

●未使用のディスクがない場合
本製品が正しく接続されていない可能性があります。
[ESC]キーでFDISKを終了し、再度、ケーブルなどを確認してください。
（【取り付けよう】(13ページ)参照）

拡張MS-DOS領域を作成する

6 「MS-DOS領域または論理MS-DOS･･･」を選択します。

「1」(MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成)を入力し、⏎キーを押します。

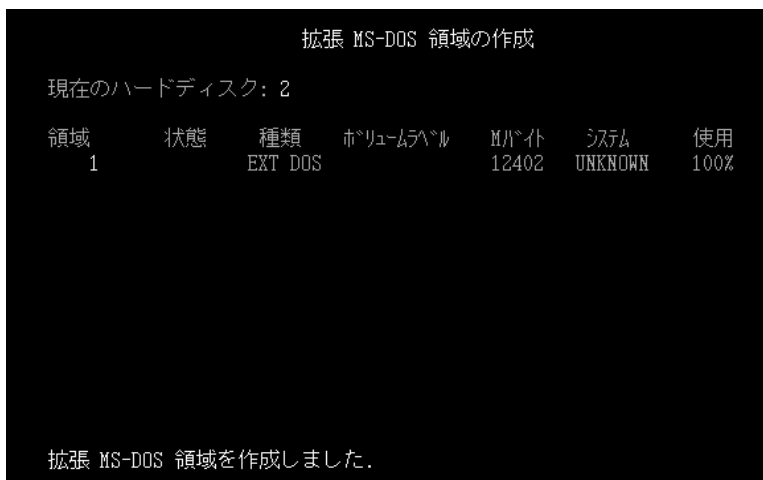
7 「拡張MS-DOS領域を作成」を選択します。

「2」(拡張MS-DOS領域を作成)を入力し、⏎キーを押します。

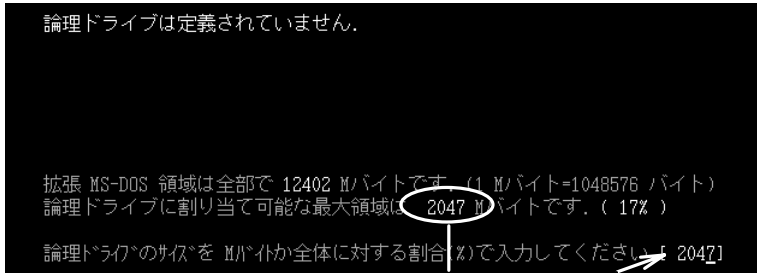
8 本製品の全容量を指定します。

表示されている領域のサイズを確認し、↵キーを押します。

●ここで指定する領域のサイズについて
この後の手順で「拡張MS-DOS領域」内にいくつかの「論理ドライブ」を作成します。（次ページ参照）
ここでの領域のサイズ指定は、「拡張MS-DOS領域」内のすべての「論理ドライブ」の合計です。
「領域に割り当て可能な最大領域」（拡張MS-DOS領域用の空き容量）が1,000Mバイトあるのに700Mバイトしか指定しなかった場合、残りの300Mバイトは使用できなくなります。
●「拡張MS-DOS領域」と「論理ドライブ」について
「拡張MS-DOS領域」内に「論理ドライブ」を作らないと、そのままドライブとして使うことはできません。

9 下の画面が表示されますので、［ESC］キーを押します。

論理ドライブを作成する

10 作成する「論理ドライブ」の容量を入力します。

「論理ドライブに割り当て可能な最大領域」で表示されている容量以下のサイズを入力し、↵キーを押します。

●手順*10*の画面が表示されなかった場合
手順*1*～*7*までの作業をすれば、手順*10*の画面が表示されます。
●「論理ドライブ」の容量の入力方法について
・サイズを［Mバイト］で指定する場合
指定したいサイズの数字のみを入力してください。
（例：1000Mバイトを指定したい場合は、「1000」と入力します。）
・サイズを［%］で指定する場合
指定したいパーセンテージに%をつけて入力してください。
（例：30パーセントを指定したい場合は、「30%」と入力します。）

11 残り容量が無くなるまで「論理ドライブ」を作ります。

「拡張MS-DOS領域」の残り容量によって表示される画面が異なります。

```
拡張 MS-DOS 領域は全部で 12402 Mバイトです.(1 Mバイト=1048576 バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域は  2047 Mバイトです. ( 17% )

論理ﾄﾞﾗｲﾌﾞのｻｲｽﾞを Mﾊﾞｲﾄか全体に対する割合(%)で入力してください.[ 2047]
```

▲この画面の場合は、手順*10*をもう一度行ってください。

```
拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて
論理ドライブに割り当てられています.
```

▲この画面の場合は、もう「論理ドライブ」は作れません。
⇒［ESC］キーを押してください。

論理ドライブを確認する

12 「領域情報を表示」を選択します。

「4」(領域情報を表示)を入力し、↵キーを押します。

13 「拡張MS-DOS領域」を確認します。

手順8で指定した容量の「拡張MS-DOS領域」が表示されているかどうかを確認します。

14 「論理ドライブ」を確認します。

「Y」を入力し、↵キーを押します。
前ページの【論理ドライブを作成する】で作成した「論理ドライブ」が表示されているかどうかを確認します。

FDISKを終了する

15 [ESC]キーを３回押します。

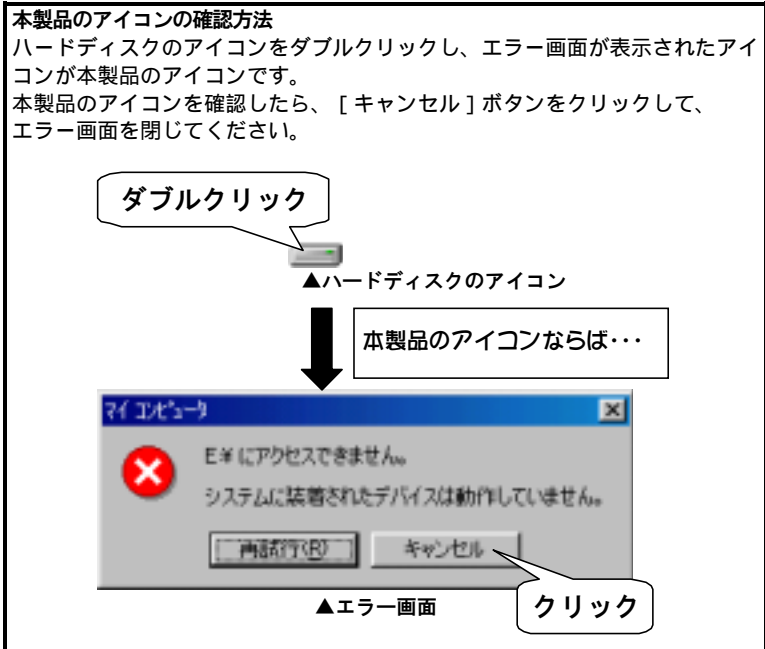
16 パソコンを再起動します。

[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを同時に押し、パソコンを再起動します。

フォーマットする

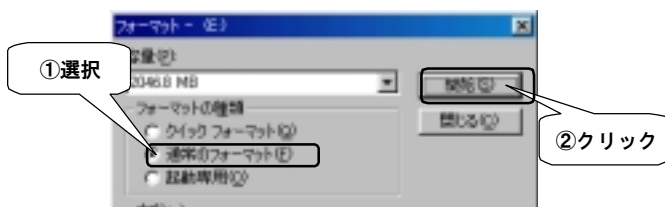
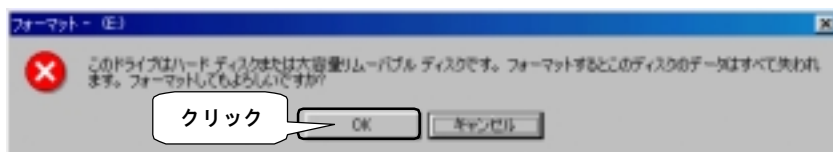
本製品を使うには、さらに本製品をフォーマットする必要があります。

17 本製品のアイコンを確認します。

［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」を開きます。
表示されたドライブアイコンの中から本製品のアイコンを確認します。

18 表示された［フォーマット］をクリックします。

本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

19 ［通常のフォーマット］でフォーマットします。

［通常のフォーマット］を選び、［スタート］ボタンをクリックします。

20 ［OK］ボタンをクリックします。

21 フォーマットが終わったら、スキャンディスクをします。

フォーマットが終わると、画面上にヘルプが表示されます。
ヘルプの指示にしたがって、スキャンディスクを実行してください。

22 作成した「論理ドライブ」の数だけフォーマットします。

まだフォーマットしていない「論理ドライブ」（本製品のアイコン）があれば、手順17からくり返してください。

23 パソコンを再起動します。

すべての「論理ドライブ」をフォーマットできたら、パソコンを再起動します。

以上でフォーマットは終了です。本製品をご使用ください。

フォーマット後の確認
フォーマット終了後、他の機器のドライブ名が変更される場合がありますので、各装置のドライブ名を再度ご確認ください。

Windows 2000でフォーマットしよう

ここでは、本製品をWindows 2000の「ディスクの管理」でフォーマットする方法について説明します。

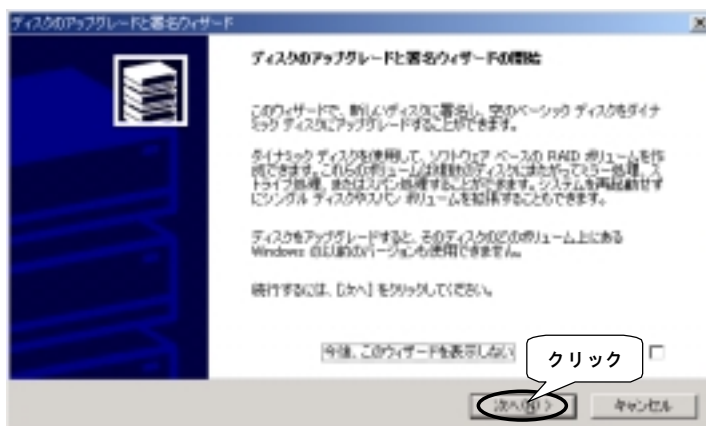
Windows 2000でハードディスクを使用するには、ディスクに署名を行う必要があります。

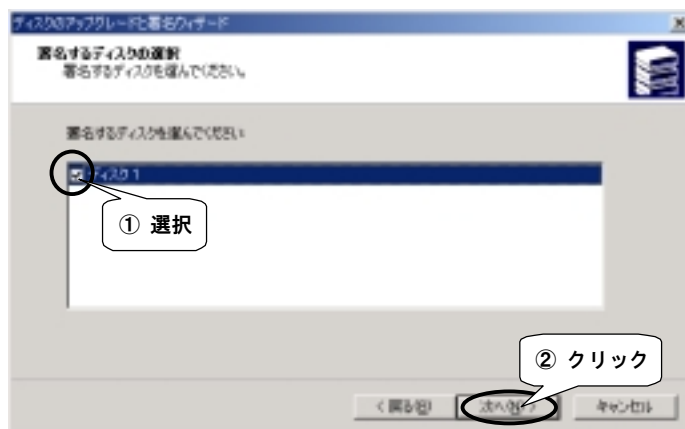
1 「コンピュータの管理」を起動します。

[マイコンピュータ] → [コントロールパネル] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] を起動します。

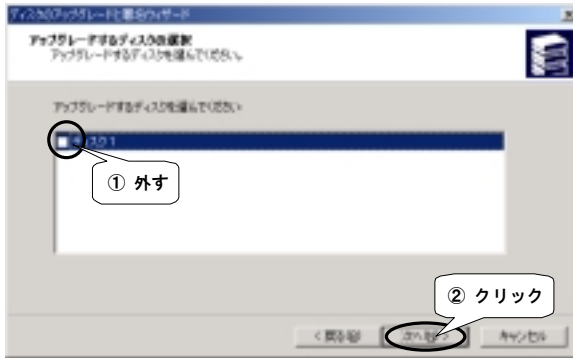
2 [ディスクの管理] をクリックします。

[記憶域] → [ディスクの管理] をクリックします。

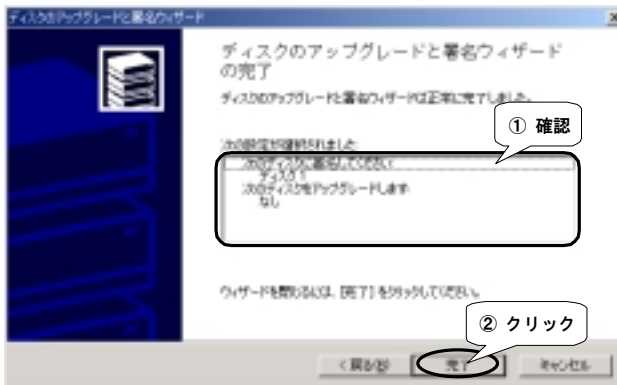
⇒「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が表示されます。

3 ［次へ］ボタンをクリックします。

4 署名するディスクを選び、［次へ］ボタンをクリックします。

署名を行わないと、ハードディスクは使用できません。
必ず署名を行ってください。

5 チェックを付けずに、［次へ］ボタンをクリックします。

全てのチェックを外し、［次へ］ボタンをクリックします。

ここでチェックを付けたディスクは、「ダイナミックディスク」となります。
「ダイナミックディスク」は、Windows 98/95などで使うことができません。
「ダイナミックディスク」についての詳細は、Windows 2000の取扱説明書、またはオンラインヘルプをご覧ください。
この手順で作成するディスクは「ベーシックディスク」と呼ばれます。

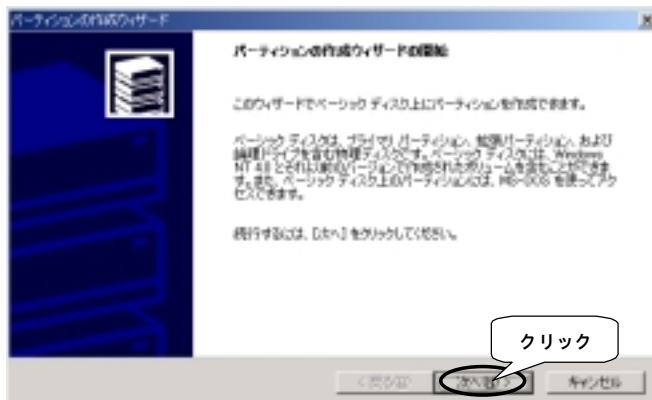
6 設定を確認して、［完了］ボタンをクリックします。

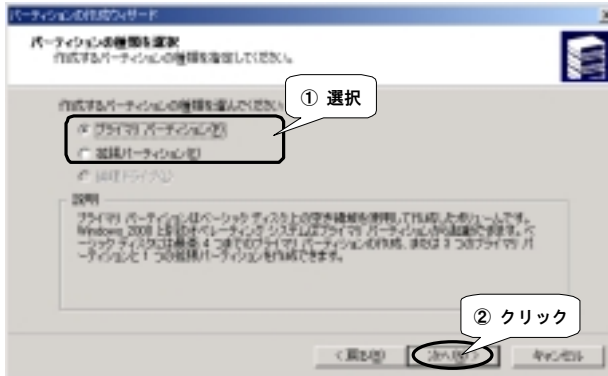
⇒署名が行われます。

次ページの【パーティションの作成とフォーマット】にお進みください。

1 「パーティションの作成ウィザード」を起動します。

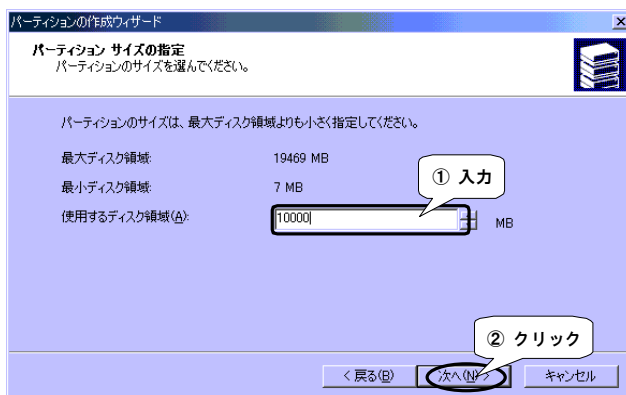
フォーマットしたいハードディスクの未割り当ての領域を右クリックし、表示された［パーティションの作成］をクリックします。

⇒「パーティションの作成ウィザード」が起動します。

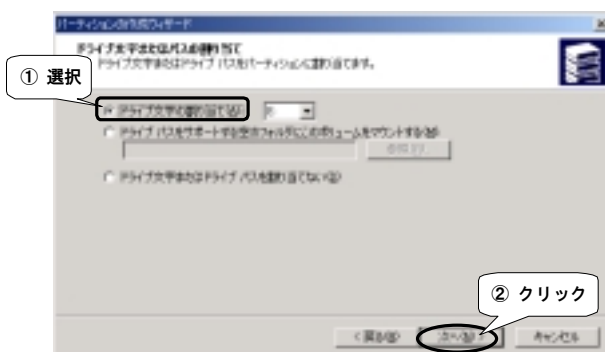
2 ［次へ］ボタンをクリックします。

3 作成する種類を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

作成するパーティションの種類を選びます。
パーティションについては画面内の説明をご覧ください。
その後、［次へ］ボタンをクリックします。

PC-9800シリーズをお使いの場合

通常、PC-9800シリーズではプライマリパーティションのみ作成できます。なお、本製品の状態によっては拡張パーティションも作成することができることがあります。このような状態で作成したパーティション(プライマリパーティションを含む)はMS-DOSなどのOSで認識できなくなる場合があります。

4 使用する容量を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

ファイルシステムを「FAT」にしたい場合は
4,095Mバイトまでの容量に設定してください。
ファイルシステムを「FAT32」にしたい場合は
約32Gバイトまでの容量に設定してください。約32Gバイト以上の「FAT32」のパーティションを作成すると正しくフォーマットできません。
前の手順で拡張パーティションを選んだ場合
拡張パーティションを作成した場合は手順*9*へ進んでください。

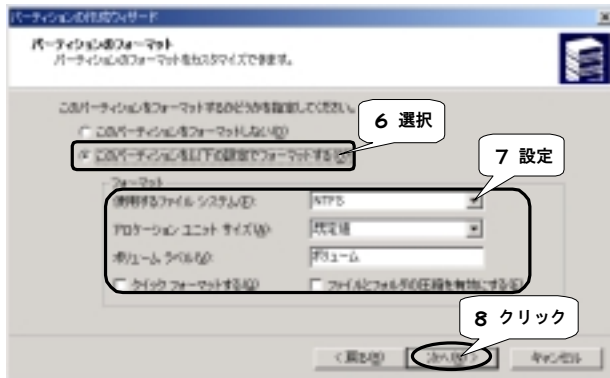
5 ドライブ文字を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

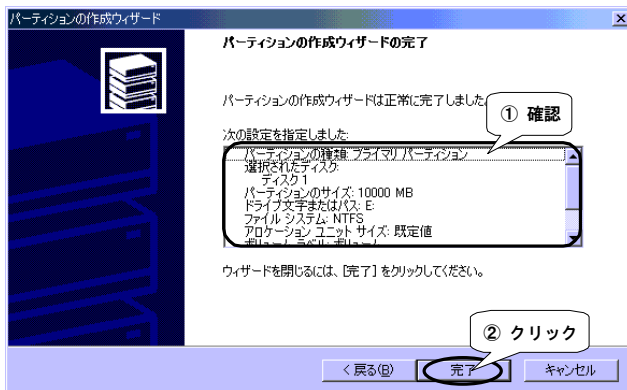
［ドライブ文字の割り当て］を選択し、［次へ］ボタンをクリックします。

［ドライブ文字の割り当て］以外に設定する
詳細は、Windows 2000の取扱説明書やオンラインヘルプをご覧ください。

6 フォーマットするように指定します。

［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］を選択します。

7 ファイルシステムの設定を行います。

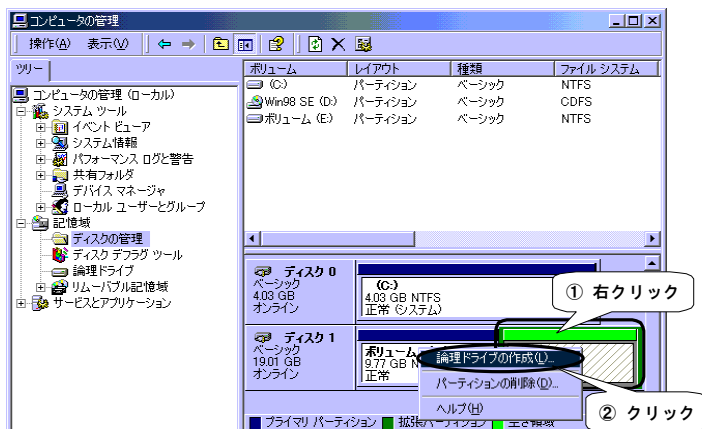
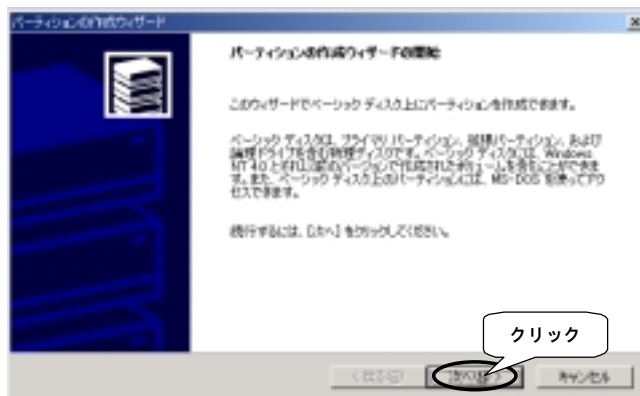
設定について
詳細は、Windows 2000の取扱説明書やオンラインヘルプをご覧ください。

8 ［次へ］ボタンをクリックします。

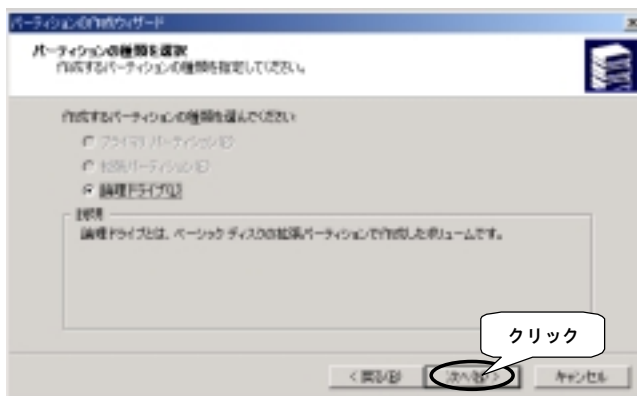
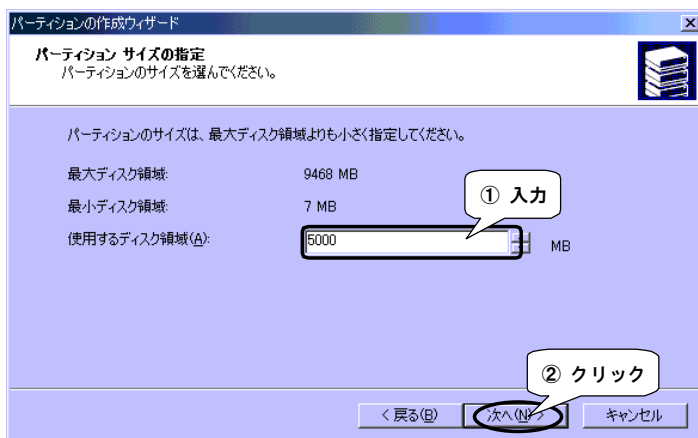
9 設定内容を確認して、［完了］ボタンをクリックします。

プライマリパーティションを作成した場合は、お使いいただけます。
⇒「マイコンピュータ」に本製品のアイコンが表示されます。今後は、本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］を選択するだけでフォーマットできます。

拡張パーティションを作成した場合は、次ページに進んでください。

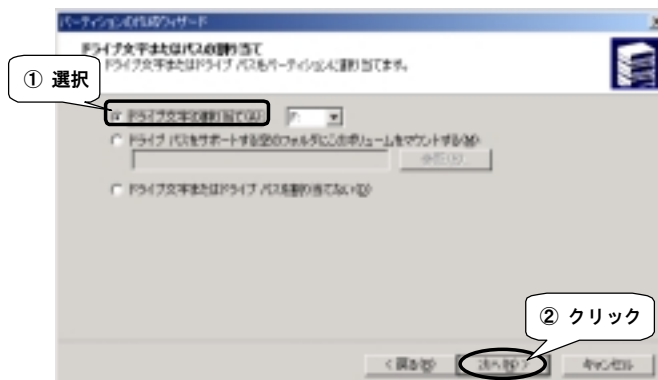
まだ本製品の容量があまっている場合は、本作業手順をさらに行ってください。

1 「空き領域」に論理ドライブを作成します。

論理ドライブを作成する拡張領域の「空き領域」を右クリックし、表示された［論理ドライブの作成］をクリックします。

2 ［次へ］ボタンをクリックします。

3 ［次へ］ボタンをクリックします。

このとき、［論理ドライブ］が選択されていることを確認してください。

4 使用する容量を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

この後、手順６でファイルシステムに「FAT」を選択しようとしている場合は、約2047Mバイトまでの容量に設定してください。

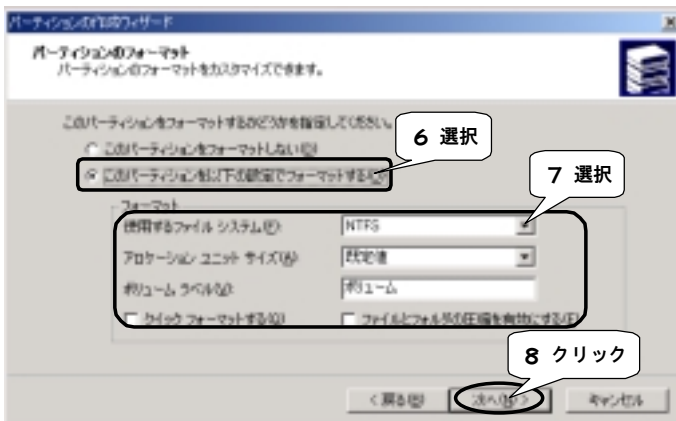
5 ドライブ文字を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

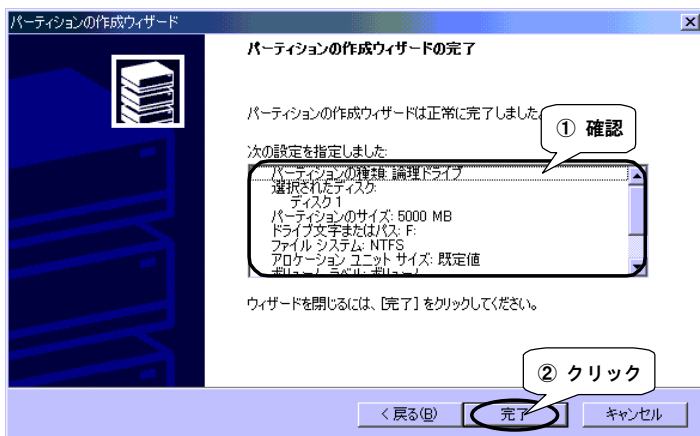
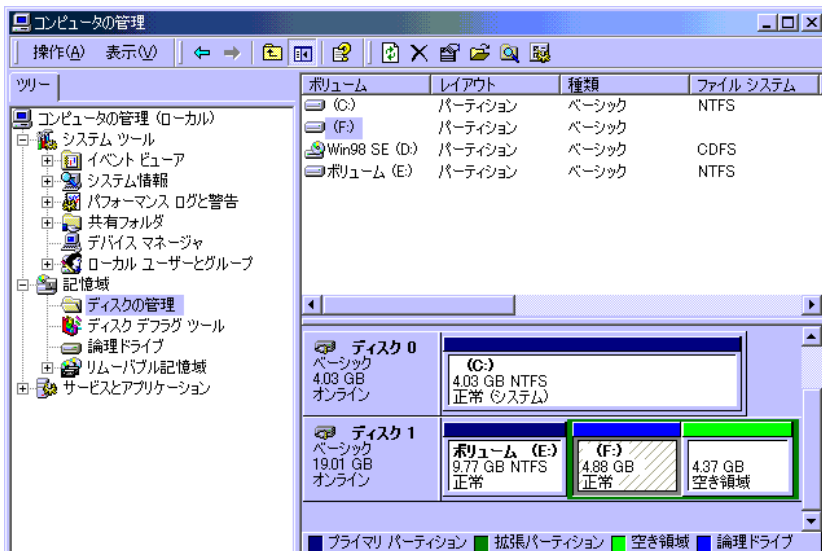
［ドライブ文字の割り当て］を選択します。
その後、［次へ］ボタンをクリックします。

［ドライブ文字の割り当て］だけでなく、［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］を選択することもできます。
［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］についての詳細は、Windows 2000の取扱説明書もしくはオンラインヘルプをご覧ください。

6 フォーマットするように指定します。

［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］を選択します。

7 ファイルシステムの設定を行います。

フォーマットの中の「使用するファイルシステム」項目を設定します。
項目の詳細については、Windows 2000の取扱説明書もしくはオンラインヘルプをご覧ください。

8 ［次へ］ボタンをクリックします。

9 設定内容を確認して［完了］ボタンをクリックします。

以上で論理ドライブの作成は終了です。
以下の例のように作成されているはずです。
（空き領域については、同様に論理ドライブを作成します。）

Windows NTでフォーマットしよう

ここでは、本製品をWindows NTの「ディスクアドミニストレータ」でフォーマットする方法について説明します。

パーティションの最大容量
Windows NTでは、「FAT」使用時のパーティションの最大容量は4095Mバイトですが、2047Mバイトを超えるパーティションを作ると他のOSからアクセスできない場合があります。

1 「ディスクアドミニストレータ」を起動します。

Windows NT 4.0の場合は、

［スタート］→［プログラム］→［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を起動します。

Windows NT 3.51の場合は、

［プログラムマネージャ］→［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を起動します。

2 署名が必要な場合は、［はい］ボタンをクリックします。

「ディスクxに署名がありません。」と表示された場合は、［はい］ボタンをクリックします。

3 パーティションを作ります。

①本製品の空き容量をクリックします。

②［パーティション］→［作成］を選択し、作成するパーティションサイズを設定し、パーティションを作ります。

③［パーティション］→［直ちに変更を反映］を選択し、変更結果を反映してください。

⇒パーティションが「未フォーマット(未反映)」から「不明」に変わります。

4 作ったパーティションをフォーマットします。

手順**3**で作ったパーティションを選択し、［ツール］→［フォーマット］を選択してください。あとは、画面の指示にしたがってください。

以上でフォーマットは終了です。

フォーマット終了後は、そのままお使いいただけます。

Windows 3.1,DOSでフォーマットしよう

ここでは、弊社製SC-UPCIシリーズ,SC-PCIに接続した本製品をWindows 3.1および MS-DOS(PC DOS)でフォーマットする方法について説明します。

弊社製 SC-UPCIシリーズ, SC-PCIでお使いの場合	**以下をご覧ください。**
弊社製 PCSC-Fシリーズ, CBSCⅡシリーズ,SC-NBUN, SC-NBPCIでお使いの場合	**フォーマット方法については、各取扱説明書をご覧ください。 ここで紹介している方法ではフォーマットできません。**
他社製などのその他のSCSIインターフェイスでお使いの場合	**各取扱説明書をご覧ください。**

1 「Physical Format(物理フォーマット)」をします。

SC-UPCIシリーズサポートソフト,SC-PCIサポートソフトでの「Disk Utility(ディスクユーティリティ)」の「Physical Format(物理フォーマット)」をします。

2 FDISKを実行します。

MS-DOS(PC DOS)の「FDISK.COM」を実行します。
詳しくはDOSの取扱説明書をご覧ください。

3 FORMATを実行します。

MS-DOS(PC DOS)の「FORMAT.COM」を実行します。
詳しくはDOSの取扱説明書をご覧ください。

FDISK使用時の注意

下の場合は、【●フォーマット時のトラブル】(133ページ)をご覧ください。

- **「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されない場合**
- **空き容量のあるディスクが見つからない場合**

以上でフォーマットは終了です。
フォーマット終了後は、そのままお使いいただけます。

PC-9800シリーズをお使いの場合

40G以上の本製品をお使いの場合は
マルチドライブモードでのみお使いいただけます。
分割比率を変更する場合は、両ドライブの容量が32Gバイトを超えないようにご注意ください。
マルチドライブモードをお使いの場合は
「ドライブ１」、「ドライブ２」の２つともにフォーマットをする必要があります。

パーティション最大容量の制限について	パーティションの最大容量の制限について説明します。(60ページ)
▼	
フォーマット手順の概要	フォーマット手順の概要を説明します。(61ページ)
Windows 98/95でフォーマットしよう	Windows 98/95でのフォーマット方法について説明します。(62ページ)
Windows 2000でフォーマットしよう	Windows 2000でのフォーマット方法について説明します。(74ページ)
Windows NTでフォーマットしよう	Windows NTでのフォーマット方法について説明します。(75ページ)
Windows 3.1,DOSでフォーマットしよう	Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)でのフォーマット方法について説明します。(77ページ)

パーティション最大容量の制限について

OSにより１パーティションに割り当てられる最大容量に制限があります。

フォーマッタソフトやフォーマットコマンドでパーティションのサイズ（容量）を設定することができますが、使用するOSによって最大容量に制限があります。［【●OS毎の１パーティションの最大容量】(34ページ)参照］

最大容量を超える容量は、いくつかのパーティションに分割して使用することになります。

フォーマット手順の概要

フォーマットはすべてのハードディスクに対して行うことができます。

・本製品以外のハードディスクをフォーマットしないよう充分ご注意ください。
・フォーマットやその他の動作で本製品のアクセス中は、絶対にパソコンの電源を切ったり、パソコンをリセットしたりしないでください。

●フォーマット手順はOSによって異なる

フォーマット手順はOSにより異なります。
また、使用しているOSおよび本製品により、制限事項等があります。
【パーティション最大容量の制限について】(34ページ)および【パーティションについて】(148ページ)を確認した後、以下の各OS毎の手順を参照してください。

・Windows 98/95の場合
【Windows 98/95でフォーマットしよう】(62ページ)

・Windows 2000の場合
【Windows 2000でフォーマットしよう】(74ページ)

・Windows NTの場合
【Windows NTでフォーマットしよう】(75ページ)

・Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)の場合
【Windows 3.1,DOSでフォーマットしよう】(77ページ)

Windows 98/95でフォーマットしよう

弊社製SC-UPCIシリーズ,SC-98ⅢおよびSC-PCIに接続した本製品をWindows 98/95でフォーマットする方法について説明します。

場合	参照
弊社製 SC-UPCIシリーズ, SC-98Ⅲ,SC-PCIでお使いの場合	**以下をご覧ください。**
弊社製 PCSC-Fシリーズ, CBSCⅡシリーズ,SC-NBUN, SC-NBPCIでお使いの場合	**フォーマット方法については、各取扱説明書をご覧ください。 ここで紹介している方法ではフォーマットできません。**
他社製などのその他のSCSIインターフェイスでお使いの場合	**各取扱説明書をご覧ください。**

本製品をフォーマットするには、下の２つの方法があります。

● **「FDISK」を使ってフォーマットする方法**

Windows 98/95の「Command Prompt Only」上で「FDISK」を使って領域確保後、Windows 98/95上でフォーマットする方法です。

● **「B'sCrew for Windows」を使ってフォーマットする方法**

Windows 98/95上で「B'sCrew for Windows」を使ってフォーマットする方法です。「B'sCrew for Windows」を使う方法の詳細については、「B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル」をご覧ください。

> **ドライブ名変更に関する注意**
> **他のハードディスクに「拡張MS-DOS領域」がある場合、本製品をこの方法でフォーマットすると、「基本MS-DOS領域」を作ってしまうため、ドライブ名が入れ替わります。（詳細は、【パーティションについて】(148ページ)参照）**

ここでは、「FDISK」を使ってフォーマットする方法について説明しています。

DISKINITを起動する

1 パソコンを起動します。

2 パソコンを「コマンドプロンプトのみ」で起動します。

Windows 98：[CTRL]キーを押したままパソコンを起動します。
メニューから、「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
（メニューが表示されない場合は、パソコン起動中に[CTRL]キーを押したり放したりを繰り返してみてください。）

Windows 95：パソコンを起動し、「Starting Windows 95」と表示されたら、
[F8] キーを押し、すぐに離します。
メニューから「コマンドプロンプトのみ」を選択します。

キーを押したままでいると「ピピーッ」と音がなる場合には
一度パソコンを起動させ、Windowsのロゴが表示されるタイミングをはかります。その後、パソコンを再起動し、Windowsのロゴが表示される約1秒前より [CTRL] キーを押し続けてください。

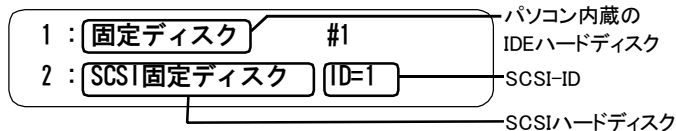
DISKINIT,FDISKを起動する際には
必ず上の手順にて「コマンドプロンプトのみ」を起動してください。
Windowsの「MS-DOSプロンプト」上でDISKINIT,FDISKを使うと、パーティションが消えるなどの誤動作の原因となります。

OSの起動選択メニューが表示されたら
固定ディスク#1のWindows 98/95を選択し、すぐに上の手順を行います。

3 DISKINITを起動します。

「DISKINIT」と入力し、↵キーを押します。

4 本製品を選択します。

SCSI-IDをご覧になり、本製品を選択してください。

本製品の見分けかた
「ノーマルモード」でお使いの場合、SCSI-ID設定用スイッチと同じ値のSCSI-IDを持つ「SCSI固定ディスク」が本製品です。
「マルチドライブモード」でお使いの場合、SCSI-ID設定用スイッチと同じ値とSCSI-ID設定用スイッチの値に１を足したSCSI-IDを持つ「SCSI固定ディスク」が本製品のドライブです。

5 **「Y」と入力して、↵キーを押します。**

⇒初期化されます。

6 **「別の装置を初期化しますか」と表示されます。**

・ノーマルモードの場合

「N」と入力し、↵キーを押します。

⇒次の手順へお進みください。

・マルチドライブモードでまだ初期化していないドライブがある場合

「Y」と入力し、↵キーを押します。

⇒手順4からもう片方のドライブを初期化してください。

・マルチドライブモードで２つのドライブとも初期化した場合

「N」と入力し、↵キーを押します。

⇒次の手順へお進みください。

FDISKを起動する

7 FDISKを起動します。

「FDISK」と入力し、↵キーを押します。

8 下の画面が表示されます。

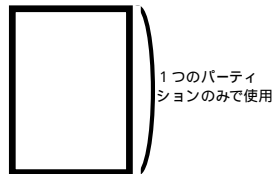
下の表をご覧になり、「Y」か「N」と入力して、↵キーを押します。

下の画面が表示されない場合
Windows 95のバージョン 4.00.950/4.00.950aをお使いの場合は表示されません。読み飛ばして次ページの手順9へお進みください。
(【Windows 95バージョンの確認方法】(7ページ)参照)

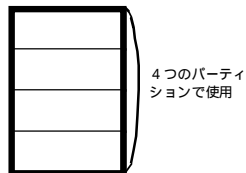
```
512 MB以上のディスクがあります.

このバージョンの Windows では, このような大容量ディスク
のサポートが強化され, より効率のよいディスク利用やより
大きな領域の定義ができるようになりました。 古いバージョ
ンの MS-DOS, Windows, ディスク ユーティリティなどはこの
大容量ディスク サポートを使用して作成された領域にはアク
セスできません.

複数のオペレーティング システム, または異なるバージョンのオペレーティング
システムをデュアル ブートする場合は, このサポートは使用しないでください.


大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)...........? [Y]
```

「Y」を入力する場合

例1)本製品の全容量を1つのパーティションで使用する場合

例2)2047Mバイト以上のパーティションを作成したい場合

「Y」を入力し、パーティションを作成すると、Windows 95 4.00.950/4.00.950a,Windows NT,MS-DOSなどのOSからアクセスできなくなります。

「N」を入力する場合

例)Windows 95 4.00.950/4.00.950a、Windows NT、MS-DOSなどのOSと共用する場合

1パーティションの最大容量は、2,047Mバイトとなります。
本製品を複数のパーティションに分割して使用することとなります。

本製品を選択する

9 「現在の装置を変更」を選びます。

「5」を入力し、⏎キーを押します。

> 「5」(現在の装置を変更)の表示がない場合
> 本製品が正しく接続されていない可能性があります。
> [ESC]キーでFDISKを終了し、再度、ケーブルなどを確認してください。
> (【取り付けよう】(13ページ)参照)

10 本製品を選択します。

ドライブの容量とドライブの空き容量が同じであるハードディスクが本製品です。その数字を入力して、⏎キーを押します。

> ●Windows 95 4.00.950/4.00.950aのバージョンをお使いの場合
> 全容量の表示が、全容量の上4桁しか表示されませんが、設定には問題ありません。(表示だけの問題です。)
> ●未使用のディスクがない場合
> 本製品が正しく接続されていない可能性があります。
> [ESC]キーでFDISKを終了し、再度、ケーブルなどを確認してください。
> (【取り付けよう】(13ページ)参照)

MS-DOS領域を作成する

11 「MS-DOS領域を作成」を選択します。

「1」(MS-DOS領域を作成)を入力し、↵キーを押します。

12 最大サイズの「MS-DOS領域」を作るかどうかを決めます。

最大サイズで「MS-DOS領域」を作る場合は、「Y」を、作らない場合は「N」を入力して、↵キーを押します。

```
MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか
(Y/N)........................................?[Y]
```

「Y」か「N」を入力後、↵キーを押す

●手順8にて「Y」を入力していた場合
ここで「Y」を入力すると、本製品の全容量を使って「MS-DOS領域」が作られます。その場合は、手順13に進んでください。

13 作成する「MS-DOS領域」の容量を入力します。

「領域に割り当てられる最大領域」で表示されている容量以下のサイズを入力し、↵キーを押します。

```
装置の総容量は 19471 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)
領域に割り当てられる最大領域は 19470 Mバイト(100%)です.

領域のサイズを Mバイトか全体に対する割合で(%)入力してください
 MS-DOS 領域を作ります.................................?[19470]
```

このサイズ以下を入力後,↵キーを押す

● 「MS-DOS領域」の容量の入力方法について
・サイズを[Mバイト]で指定する場合
指定したいサイズの数字のみを入力してください。
(例:1000Mバイトを指定したい場合は、「1000」と入力します。)
・サイズを[%]で指定する場合
指定したいパーセンテージに%をつけて入力してください。
(例:30パーセントを指定したい場合は、「30%」と入力します。)

14 残り容量が無くなるまで「MS-DOS領域」を作ります。

「拡張MS-DOS領域」の残り容量によって表示される画面が異なります。

```
装置の総容量は 19471 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)
領域に割り当てられる最大領域は 14603 Mバイト( 75%)です.

領域のサイズを Mバイトか全体に対する割合で(%)入力してください.
 MS-DOS 領域を作ります..............................? [14603]
```

▲この画面の場合は、手順10をもう一度行ってください。

```
MS-DOS 領域を作る領域はありません.
```

▲この画面の場合は、もう「MS-DOS領域」は作れません。

⇒［ESC］キーを押してください。

MS-DOS領域を確認する

15 「領域情報を表示」を選択します。

「4」(領域情報を表示)を入力し、↵キーを押します。

16 「MS-DOS領域」を確認します。

前ページの【MS-DOS領域を作成する】で作成した「MS-DOS領域」が表示されているかどうかを確認します。

FDISKを終了する

17 ［ESC］キーを３回押します。

18 パソコンを再起動します。

［Ctrl］+［Alt］+［Delete］キーを同時に押し、パソコンを再起動します。

フォーマットする

本製品を使うには、さらに本製品をフォーマットする必要があります。
フォーマットの際は、OSや「ドライブ」の容量によって手順が異なります。

●Windows 95でお使いの場合

次ページの【Windows上でフォーマットする】をご覧ください。

●Windows 98で8.4Gバイト以下の本製品をお使いの場合

次ページの【Windows上でフォーマットする】をご覧ください。

●Windows 98で13Gバイト以上の本製品をお使いの場合

・ノーマルモードでお使いの場合

【FORMATでフォーマットする】(72ページ)をご覧ください。

・マルチドライブモードでお使いで、8.4Gバイト未満のドライブの場合

次ページの【Windows上でフォーマットする】をご覧ください。

・マルチドライブモードでお使いで、8.4Gバイト以上のドライブの場合

【FORMATでフォーマットする】(72ページ)をご覧ください。

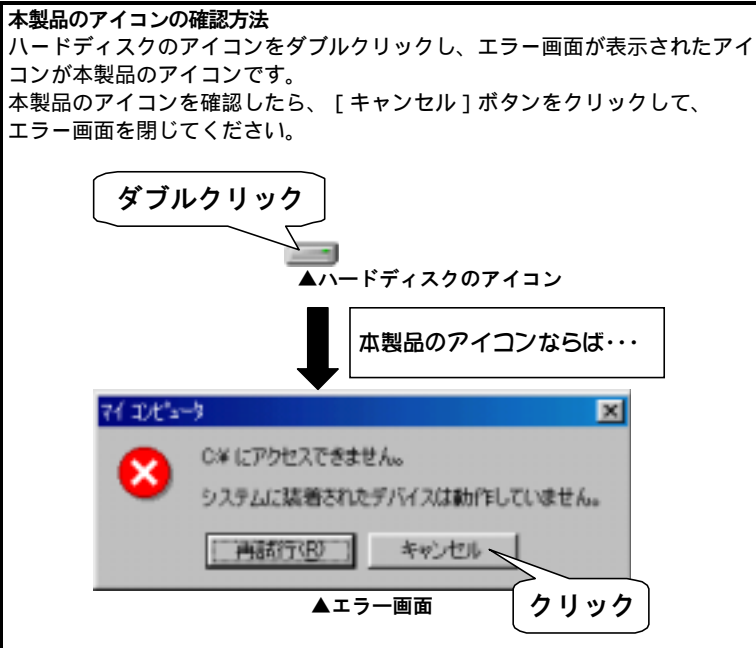
ドライブについて

ドライブとは、本製品をマルチドライブモードで分割したものを意味します。通常、ドライブの大きさは本製品の半分ですが、Super Multi Drive設定ユーティリティ(91ページ)を使えば、分割比率を変更できます。

Windows上でフォーマットする

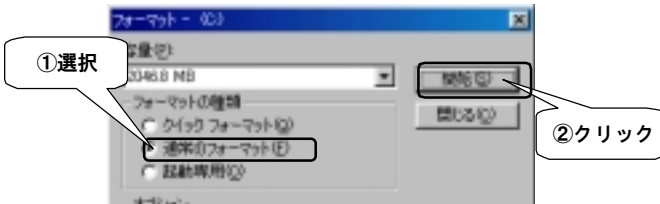
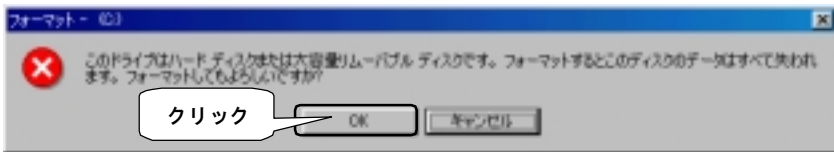
19 本製品のアイコンを確認します。

［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」を開きます。

表示されたドライブアイコンの中から本製品のアイコンを確認します。

20 表示された［フォーマット］をクリックします。

本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

21 ［通常のフォーマット］でフォーマットします。

［通常のフォーマット］を選び、［スタート］ボタンをクリックします。

22 ［OK］ボタンをクリックします。

23 フォーマットが終わったら、スキャンディスクをします。

フォーマットが終わると、画面上にヘルプが表示されます。
ヘルプの指示にしたがって、スキャンディスクを実行してください。

24 作成した「MS-DOS領域」の数だけフォーマットします。

まだフォーマットしていない「MS-DOS領域」（本製品のアイコン）があれば、手順19からくり返してください。

25 パソコンを再起動します。

すべての「MS-DOS領域」をフォーマットできたら、パソコンを再起動します。

以上でフォーマットは終了です。本製品をご使用ください。

フォーマット後の確認
フォーマット終了後、他の機器のドライブ名が変更される場合がありますので、各装置のドライブ名を再度ご確認ください。

FORMATでフォーマットする

19 パソコンを「コマンドプロンプトのみ」で起動します。

[CTRL]キーを押したままパソコンを起動します。
メニューから、「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
（メニューが表示されない場合は、パソコン起動中に[CTRL]キーを押したり放したりしてみてください。）

20 本製品のドライブ文字を確認します。

本製品のドライブ文字は、今までのハードディスクの次以降の文字になります。

本製品のドライブ文字の確認方法

今までのハードディスクのドライブ文字がA,Bだった場合、本製品のドライブ文字はC以降となります。

本製品のドライブ文字に「DIR」コマンドを実行すると、「無効なメディアの種類です」と表示されます。
他の通常使っているドライブだった場合は、そのドライブの内容が表示されます。

今までのハードディスクのドライブ文字がA,Bだった場合
「DIR C:」と入力し、↵キーを押してみてください。
「無効なメディアの種類です」と表示されなかった場合は、次のドライブを確認します。この例の場合、「DIR D:」,「DIR E:」････と順に試していき本製品のドライブ文字を確認してください。

21 FORMATを実行します。

「FORMAT x:」(xは手順20で確認した本製品のドライブ文字)と入力し、↵ボタンを押します。

22 フォーマットします。

メッセージが表示されますので、手順20で確認した本製品が選択されているかどうかを確認し、よろしければ「Y」と入力し、↵キーを押してます。
⇒本製品がフォーマットされます。

フォーマット中の注意

フォーマット中は電源を切らないでください。フォーマット中に電源を切ったり、パソコンをリセットすると本製品が故障するおそれがあります。

23 ボリュームラベルを入力します。

フォーマットしたドライブにつけるボリュームラベル（名前）を入力し、↵キーを押します。

ボリュームラベルについて **ボリュームラベルは、必要無ければ付けなくてもかまいません。**

以上でフォーマットは終了です。本製品をご使用ください。

フォーマット後の確認 **フォーマット終了後、他の機器のドライブ名が変更される場合がありますので、各装置のドライブ名を再度ご確認ください。** **今後のフォーマットについて** **この方法でフォーマットした後、フォーマットしたドライブをWindows上で「クイックフォーマット」することはできます。** **しかし、「通常フォーマット」することはできません。その場合は、必ず前ページからの【FORMATでフォーマットする】の手順にてフォーマットしてください。**

Windows 2000でフォーマットしよう

本製品をWindows 2000の「ディスクの管理」でフォーマットする方法については、PC98-NXシリーズやDOS/Vマシンと同じです。

- **45ページの【Windows 2000でフォーマットしよう】をご覧ください。**

Windows NTでフォーマットしよう

ここでは、本製品をWindows NTの「ディスクアドミニストレータ」でフォーマットする方法について説明します。

> **パーティションの最大容量**
> **Windows NTでは、「FAT」使用時のパーティションの最大容量は4095Mバイトですが、2047Mバイトを超えるパーティションを作ると他のOSからアクセスできない場合があります。**

1 「ディスクアドミニストレータ」を起動します。

Windows NT 4.0の場合は、

［スタート］→［プログラム］→［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を起動します。

Windows NT 3.51の場合は、

［プログラムマネージャ］→［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を起動します。

> **「アドミニストレータ」を起動する際の注意**
> **出荷時状態の本製品を接続した状態で、「ディスクアドミニストレータ」を初めて起動すると、すでに存在するハードディスクと同じパーティションが本製品に存在している様に見える場合があります。**
> **その場合パーティションのフォーマットや削除などをしないでください。**
> **一度、「ディスクアドミニストレータ」を終了し、ふたたび「ディスクアドミニストレータ」を起動すると正しい表示となります。**

2 署名が必要な場合は、［はい］ボタンをクリックします。

「ディスクxに署名がありません。」と表示された場合は、［はい］ボタンをクリックします。

3 パーティションを作ります。

①本製品の空き容量をクリックします。

②［パーティション］→［作成］を選択し、作成するパーティションサイズを設定し、パーティションを作ります。

③［パーティション］→［直ちに変更を反映］を選択し、変更結果を反映してください。

⇒パーティションが「未フォーマット(未反映)」から「不明」に変わります。

作るパーティションの数について

パーティションを5つ以上作成した場合、Windows 98/95やMS-DOSなどで誤動作する場合があります。

Windows 98/95やMS-DOSなどと共用する場合、パーティションを4つ以内にするか、FDISK(Windows 98/95)やFORMAT.EXE /H(MS-DOS)でアクティブなパーティションを4つ以内にしてください。

方法につきましては、各OSの取扱説明書をご参照ください。

4 作ったパーティションをフォーマットします。

手順3で作ったパーティションを選択し、［ツール］→［フォーマット］を選択してください。あとは、画面の指示にしたがってください。

以上でフォーマットは終了です。

フォーマット終了後は、そのままお使いいただけます。

Windows 3.1,DOSでフォーマットしよう

ここでは弊社製SC-UPCIシリーズ,SC-98ⅢおよびSC-PCIに接続した本製品をWindows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)でフォーマットする方法について説明します。

対象	参照先
弊社製 SC-UPCIシリーズ, SC-98Ⅲ,SC-PCIでお使いの場合	**以下をご覧ください。**
弊社製 PCSC-Fシリーズ, CBSCⅡシリーズ,SC-NBUN, SC-NBPCIでお使いの場合	**フォーマット方法については、各取扱説明書をご覧ください。 ここで紹介している方法ではフォーマットできません。**
他社製などのその他のSCSIインターフェイスでお使いの場合	**各取扱説明書をご覧ください。**

● FORMAT /Hを実行します。

MS-DOSの「FORMAT /H」を実行します。
詳しくはDOSの取扱説明書をご覧ください。

以上でフォーマットは終了です。
フォーマット終了後は、そのままお使いいただけます。

Macintoshをお使いの場合

マルチドライブモードをお使いの場合は
「ドライブ１」、「ドライブ２」の２つともにイニシャライズ･フォーマットをする必要があります。

パーティション最大容量の制限について

パーティションの最大容量の制限について説明します。(80ページ)

▼

フォーマット・イニシャライズしよう

フォーマット・イニシャライズ方法について説明します。(81ページ)

パーティション最大容量の制限について

●1パーティションの最大容量

OSやフォーマッタソフトにより1パーティションに割り当てられる最大容量に制限があります。
最大容量を超える容量は、いくつかのパーティションに分割して使用することになります。

OS	1パーティションの最大容量
漢字Talk 6.0.7，6.0.7.1，7.1	2G※バイトまで
漢字Talk 7.5，7.5.1	4G※バイトまで
漢字Talk 7.5.2，7.5.3，7.5.5 Mac OS 7.6，7.6.1，8，8.1，8.5， 8.5.1，8.6，9，9.0.2， 9.0.3，9.0.4	2T※バイトまで

※ 1Tバイト=1,000Gバイト=1,000,000Mバイト

ビー・エイチ・エー社製 B'sCrewをお使いの方へ
B'sCrewをお使いの場合は、バージョン2.1.6以降もしくは3.1.2(Lite版を含む)以降をお使いください。

パーティション作成の際の注意
漢字Talk上で動作するアプリケーションはほとんど2Gバイトまでの対応となっているため、安全にお使いになるために1パーティションを2Gバイト以下にすることをおすすめします。

フォーマット・イニシャライズしよう

ここでは、本製品をフォーマット・イニシャライズする方法について説明します。

ブラインド転送機能について
お使いのフォーマッタソフトの「ブラインド転送」に関する機能は切ってください。
設定方法については、フォーマッタソフトの取扱説明書をご覧ください。

手順はフォーマッタソフトによって異なります。
本書では、ビー・エイチ・エー社製「B'sCrew 3」を使った場合の手順を説明します。

ビー・エイチ・エー社製 B'sCrewをお使いの方へ
ここでの手順は参考例です。実際に作業する際には、必ず「B'sCrewユーザーズマニュアル」をご覧ください。

B'sCrewを起動する

1 パソコンを起動します。

2 B'sCrewを起動します。

B'sCrewがインストールされていない場合は、インストールします。
B'sCrewのインストール・起動方法については、「B'sCrewユーザーズマニュアル」をご覧ください。

ブラインド転送機能について
「ドライバ設定オプション」内の「ライトブラインド優先」のチェックを外してください。

3 本製品をダブルクリックします。

本製品は下のように表示されます。
「ノーマルモード」の場合：「HDVS-UMxxG」
「マルチドライブモード」の場合：「HDVS-UMxxG-1」（ドライブ１）
「HDVS-UMxxG-2」（ドライブ２）

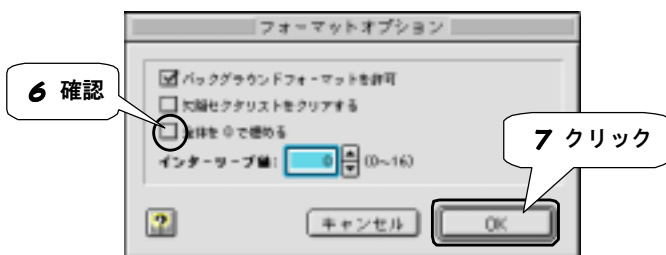
フォーマットの設定をする

4　フォーマットにチェックします。

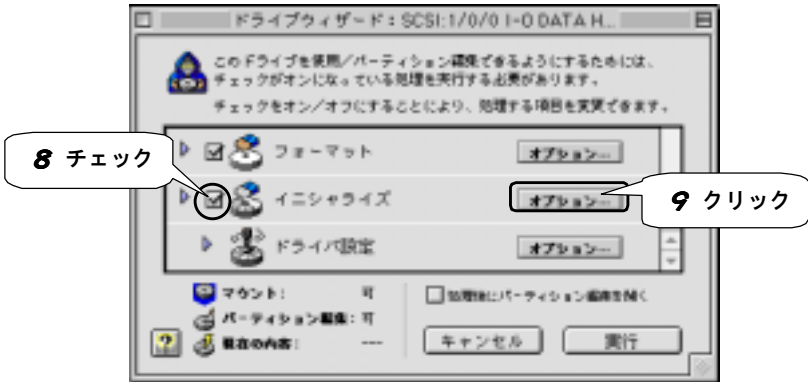
5　フォーマットの［オプション］ボタンをクリックします。

6　「全体を0で埋める」を確認します。

「全体を0で埋める」にチェックが入っていないことを確認します。

7　［OK］ボタンをクリックします。

イニシャライズの設定をする

8 イニシャライズにチェックします。

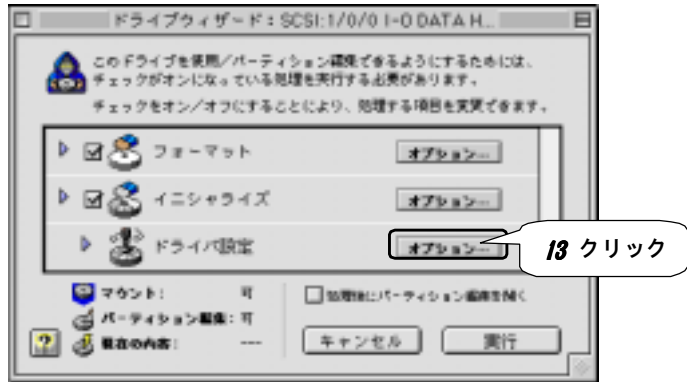
9 イニシャライズの[オプション]ボタンをクリックします。

10 パーティションを作る数を入力します。

11 パーティションタイプを選択します。

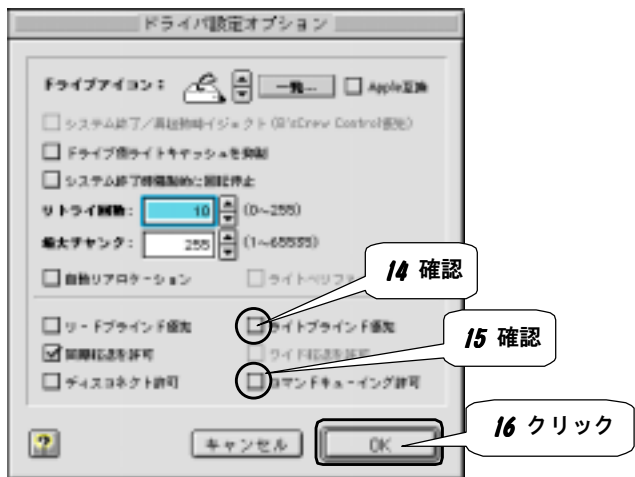
> パーティションタイプについて
> Mac OS標準(HFS)：古いOSでも認識することができます。
> Mac OS拡張(HFS+)：Mac OS 8以前のOSでは認識できませんが、小さいサイズの書類を利用することが多い場合に有効に容量を使えます。

12 [OK] ボタンをクリックします。

ドライバの設定をする

13 ドライバ設定の［オプション］ボタンをクリックします。

14 「ライトブラインド優先」のチェックを外します。

15 「コマンドキューイング許可」のチェックを外します。

16 ［OK］ボタンをクリックします。

作業を行う

17　［実行］ボタンをクリックします。

18　［OK］ボタンを３回クリックします。

以上で作業は終了です。本製品をご使用ください。

> パーティションについて
> このままではドライブ内は決定したパーティションの数によって等分割されています。パーティションの容量を変えたい場合は、「B'sCrewユーザーズマニュアル」をご覧になってパーティションの編集をしてください。

使ってみよう

フォーマットについて
本製品はフォーマットしないと使うことができません。
本製品をまだフォーマットしていない場合は、先に【お使いのパソコンは？】(31ページ)をご覧ください。

電源の入れ方･切り方

本製品の電源の入れ方・切り方を説明します。(88ページ)

モードを切り替える

本製品のモードの切り替え方法について説明します。(89ページ)

電源の入れ方・切り方

ここでは、本製品の電源を入れたり、切ったりするときの手順について説明します。

本製品の電源を入れる

本製品を含むすべてSCSI機器の電源は、パソコンの電源を入れる前に入れてください。パソコンの電源を入れた後で、SCSI機器の電源を入れてもSCSI機器が認識されない場合があります。

電源を入れる手順について

ここで説明している方法は、一般的なSCSIインターフェイスのものです。SCSI PCカードなど起動方法が異なるものもあります。詳しくはSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

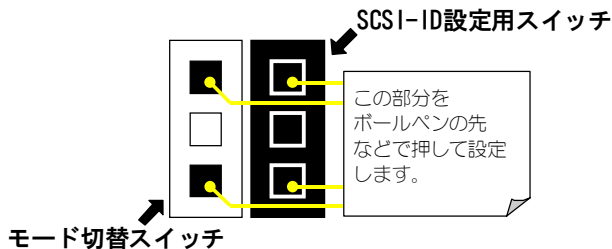
本製品の電源を切る

本製品を含むすべてSCSI機器の電源は、パソコンの電源を切った後に切ってください。パソコンの電源を切る前に、SCSI機器の電源を切るとSCSI機器の故障の原因となる場合があります。

電源を切る手順について

ここで説明している方法は、一般的なSCSIインターフェイスのものです。SCSI PCカードなど起動方法が異なるものもあります。詳しくはSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

モードを切り替える

ここでは、本製品のモードを切り替える方法について説明します。

「ドライブ1」「ドライブ2」の順に認識　・・・・・・・・・・・・・「3」

ドライブスイッチを「3」にします。

「ドライブ2」「ドライブ1」の順に認識　・・・・・・・・・・・・・「4」

ドライブスイッチを「4」にします。

「ドライブ1」のみを認識　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「5」

ドライブスイッチを「5」にします。「ドライブ2」にはアクセスできません。

「ドライブ2」のみを認識　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「6」

ドライブスイッチを「6」にします。「ドライブ1」にはアクセスできません。

Super Multi Drive設定ユーティリティ

特長	Super Multi Drive設定ユーティリティの特長を説明します。(92ページ)
▼	
動作環境	Super Multi Drive設定ユーティリティの動作環境を説明します。(93ページ)
Windows 98/95/2000/NT 4.0の場合	Windows 98/95/2000/NT 4.0での使い方について説明します。(94ページ)
DOSの場合	MS-DOS(PC DOS)での使い方について説明します。(108ページ)
Macintoshの場合	Macintoshでの使い方について説明します。(120ページ)

特長

このソフトウェアを使用すれば、マルチドライブモードの分割比率を変えたり、
本製品にパスワードを設定し、パスワードを入力して解除するまで本製品を
ハードディスクとしてアクセスできないようにする機能を使用できます。

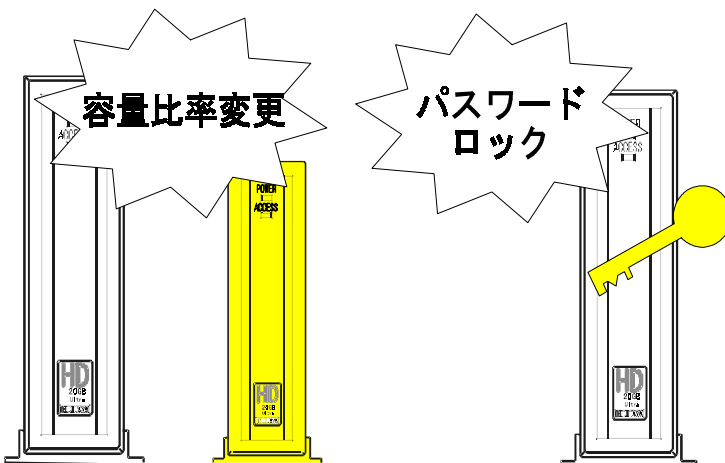
マルチドライブ分割比率変更機能

マルチドライブモードの分割比率は、出荷時では50:50に設定されて
います。
この機能は、分割比率を自由に変更することができます。

ドライブロック機能

この機能は、本製品にパスワードを設定し、一時的にOSからのアクセス
を制限するものです。ドライブの片方のみをロックすることはできません。
簡易機能ですので、セキュリティ機能としての動作を保証するものでは
ありません。
また、起動ドライブに対してドライブロック、解除およびパスワードの
変更を行うには起動用ディスクを作成する必要があります。

ドライブロック機能について

- **本機能は簡易機能です。本機能を使用中に発生したいかなる損害に対しても、弊社では一切責任を負いかねます。**
- **本機能はノーマルモードの本製品にもお使いいただけます。**

動作環境

ここでは、Super Multi Drive設定ユーティリティが対応している機種・OSについて説明しています。

HDVS-UM40Gをお使いの場合は
Super Multi Drive設定ユーティリティのバージョン1.01以降をお使いください。

対応機種	対応OS
NEC PC98-NXシリーズ※1	Windows 98/95※2, Windows 2000※3, Windows NT 4.0※3
DOS/Vマシン※1	Windows 98/95※2, Windows 2000※3, Windows NT 4.0※3, MS-DOS Ver 6.2/V(PC DOS J6.1/V)以降※4
NEC PC-9800シリーズ※1	Windows 98/95※2, Windows 2000※3, Windows NT 4.0※3, MS-DOS Ver 6.2以降※4
Apple Macintosh※1,5,6	漢字Talk 7.5以降, Mac OS 7.6以降(9.0.4対応)

※1 本ドライブ以外から対応OSを起動する必要があります。
※2 OSにASPIマネージャが組み込まれていること。
通常、Windows 98/95にはASPIマネージャが組み込まれています。
※3 お使いのSCSIインターフェイスに付属しているASPIマネージャが組み込まれている必要があります。
ASPIマネージャおよびその組み込みについては各SCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照ください。
推奨SCSIインターフェイス
弊社製　SC-UPCIシリーズ（ASPI接続ビューアをインストール）
※4 MS-DOS(PC DOS)にASPIマネージャおよびCD-ROMドライブ用ドライバが組み込まれていること。また、日本語モードのみ対応です。
ASPIマネージャについての詳細は、ご使用のSCSIインターフェイスの取扱説明書をご参照ください。
CD-ROMドライブ用ドライバについての詳細は、パソコン本体の取扱説明書か各CD-ROMドライブの取扱説明書をご参照ください。
※5 iMac、iBookには対応しておりません。
※6 お使いのMacintoshが、SCSI Manager4.3に対応した以下の機種であること。
漢字Talk 7.5以降、もしくはMac OSがインストールされたMacintosh
（PowerBookでは、PowerBook2400,3400,G3/250以降の機種）

Windows 98/95/2000/NT 4.0の場合

ここでは、Windows版「Super Multi Drive設定ユーティリティ」を使用する方法について説明しています。

●マルチドライブ分割比率変更機能（本ページ）

●ドライブロック機能（100ページ）

マルチドライブ分割比率変更機能

プログラムモードに切り替える

1　パーティションがある場合は、すべて削除します。

モードを変更する前に、FDISKなどで本製品内すべてのパーティションを削除します。

ご購入後に本製品を一度も使用したことがない場合
　パーティションはありませんので、削除する必要はありません。
　そのまま次へお進みください。

2　プログラムモードに切り替えます。

パソコンおよび本製品の電源を切り、モードスイッチを「7」に変更します。

ユーティリティで比率を変更する

3　本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

4　「不明なデバイス」として認識される場合があります。

その場合は、［キャンセル］ボタンをクリックします。

5　添付のCD-ROMを挿入します。

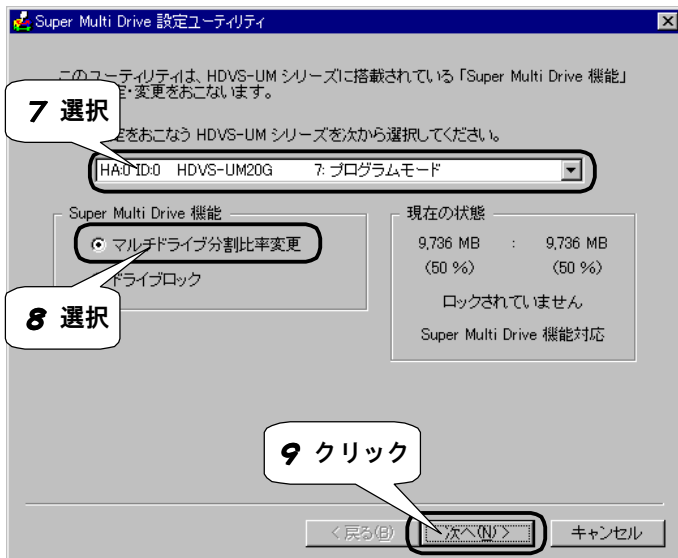
6 「WUMUTL」を起動します。

［マイコンピュータ］→［HDVS-UM_SMD］→［UMUTL］→［WIN32］→［WUMUTL.EXE］を順にダブルクリックします。

7 分割比率を変更したい本製品を選択します。

本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

8 ［マルチドライブ分割比率変更］を選択します。

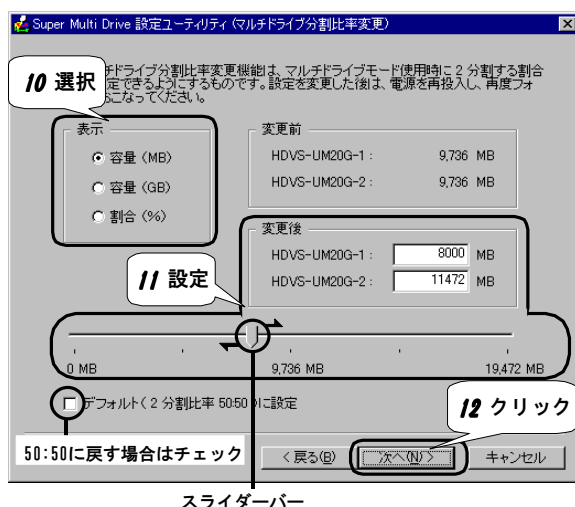
9 ［次へ］ボタンをクリックします。

10 「表示」にて表示方法を選択します。

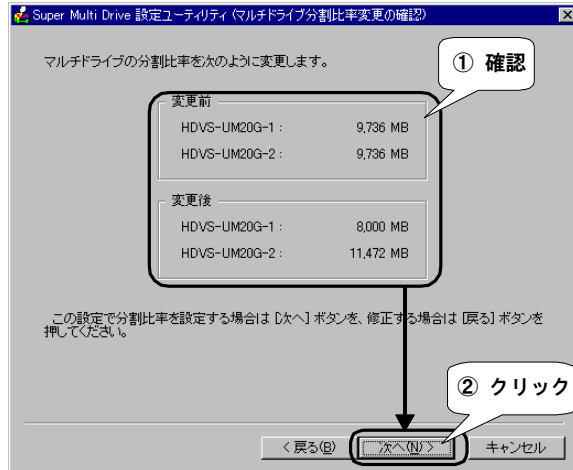
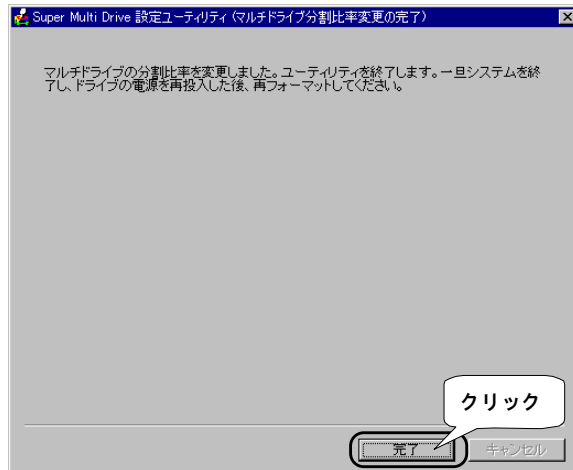
容量を表示する単位、もしくは割合を選択します。

11 [スライダーバー]、または「変更後」にて設定します。

スライダーバーを移動、もしくは「変更後」に記入することで容量を設定します。

PC-9800シリーズで40Gバイト以上の本製品をお使いの場合
分割した両ドライブとも32Gバイトを超えないように設定してください。

12 [次へ] ボタンをクリックします。

13 内容を確認します。

「変更前」と「変更後」の数値を確認し、良いなら［次へ］ボタンをクリックします。

14 ［完了］ボタンをクリックします。

15 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

本製品をフォーマットする

ご使用の機種によって操作手順が異なります。

● PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合(本ページ)

● PC-9800シリーズの場合(次ページ)

●PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合

16 本製品のモードを変更します。

【モードを切り替える】(89ページ)を参照してモードスイッチを変更してください。

17 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

18 本製品を「物理フォーマット」などをします。

SCSIインターフェイスやソフトウェアにより、物理フォーマット、もしくはデータ管理情報の消去を行います。
詳細は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

> **データ管理情報の消去について**
> **本製品は物理フォーマットに時間がかかります。**
> **データ管理情報の消去を行うことができれば、物理フォーマットを行うよりも短い時間で作業を終わらせることができます。**

19 本製品をフォーマットします。

【PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンをお使いの場合】(33ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

●PC-9800シリーズの場合

16 本製品のモードを変更します。

【モードを切り替える】(89ページ)を参照してモードスイッチを変更してください。

17 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

18 本製品をフォーマットします。

Windows 98/95でお使いの場合

【Windows 98/95でフォーマットしよう】(62ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

Windows 2000でお使いの場合

SCSIインターフェイスやソフトウェアにより、物理フォーマット、もしくはデータ管理情報の消去を行います。
詳細は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。
その後、【Windows 2000でフォーマットしよう】(74ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

Windows NT 4.0でお使いの場合

SCSIインターフェイスやソフトウェアにより、物理フォーマット、もしくはデータ管理情報の消去を行います。
詳細は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。
その後、【Windows NTでフォーマットしよう】(75ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

データ管理情報の消去について
本製品は物理フォーマットに時間がかかります。
データ管理情報の消去を行うことができれば、物理フォーマットを行うよりも短い時間で作業を終わらせることができます。

ドライブロック機能

本機能はロックされていない本製品の場合と、ロックされている本製品の場合で、できることが変化します。
ご使用の本製品に合わせて、お読みください。

ロックされていない本製品の場合

本製品をロックします。

プログラムモードに切り替える

1 プログラムモードに切り替えます。

パソコンおよび本製品の電源を切り、モードスイッチを「7」に変更します。

ユーティリティでロックする

2 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

3 「不明なデバイス」として認識される場合があります。

その場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

4 添付のCD-ROMを挿入します。

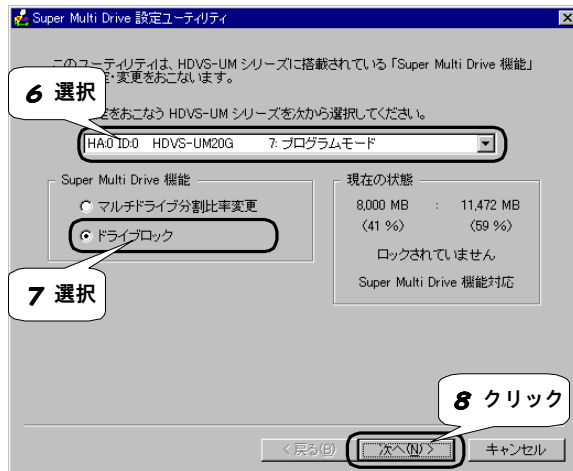
5 「WUMUTL」を起動します。

[マイコンピュータ]→[HDVS-UM_SMD]→[UMUTL]→[WIN32]→[WUMUTL.EXE]を順にダブルクリックします。

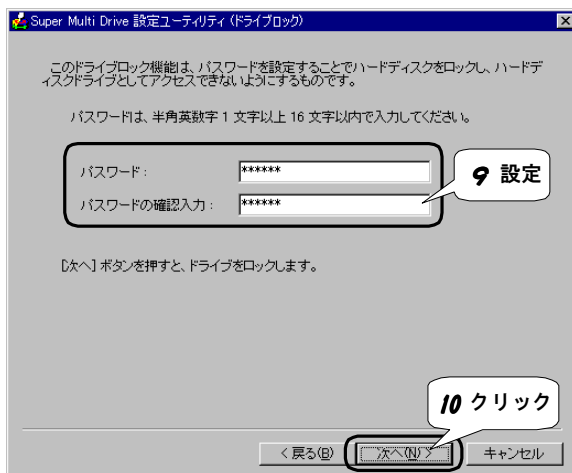
6 ロックしたい本製品を選択します。

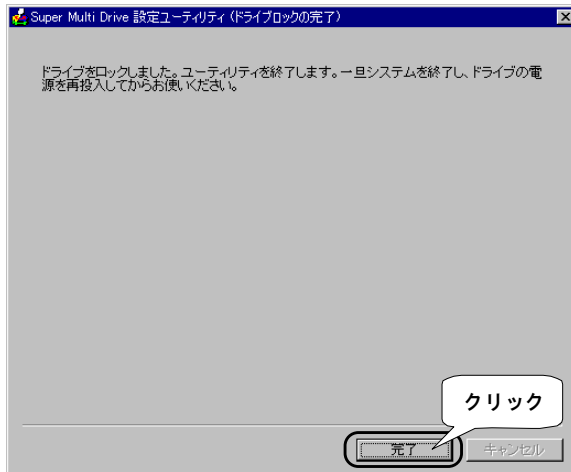
本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

7 ［ドライブロック］を選択します。

8 ［次へ］ボタンをクリックします。

9 パスワードを設定します。

同じパスワードを「パスワード」と「パスワードの確認入力」に入力します。

10 ［次へ］ボタンをクリックします。

この時点で本製品はロックされます
パスワードを設定し、［次へ］ボタンをクリックした時点で、本製品はロックされます。
起動ドライブに対して、ドライブロック機能を使用すると起動できなくなりますので、誤って設定しないようご注意ください。
パスワードについて
パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

11 ［完了］ボタンをクリックします。

12 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

これで本製品はロックされました。
解除するまで、ハードディスクとしてアクセスできません。

ロックされている本製品の場合

本製品のロックを解除したり、パスワードを変更したりします。

ユーティリティで解除・変更する

1　本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

2　「不明なデバイス」として認識される場合があります。

その場合は、［キャンセル］ボタンをクリックします。

3　添付のCD-ROMを挿入します。

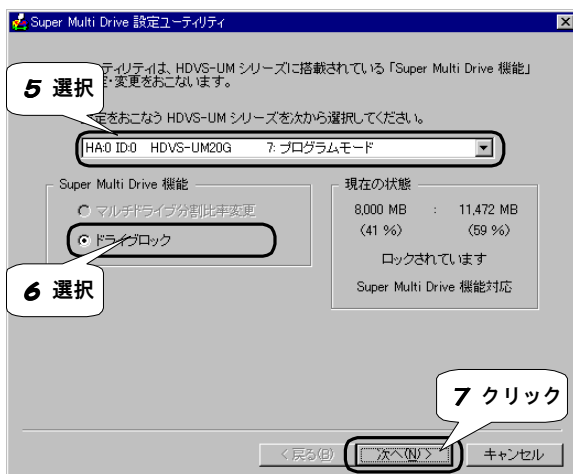
4　「WUMUTL」を起動します。

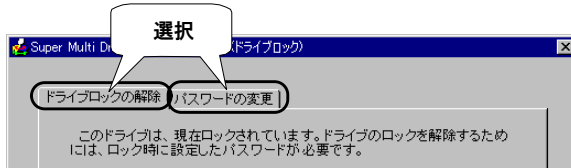
［マイコンピュータ］→［HDVS-UM_SMD］→［UMUTL］→［WIN32］→［WUMUTL.EXE］を順にダブルクリックします。

5　作業したい本製品を選択します。

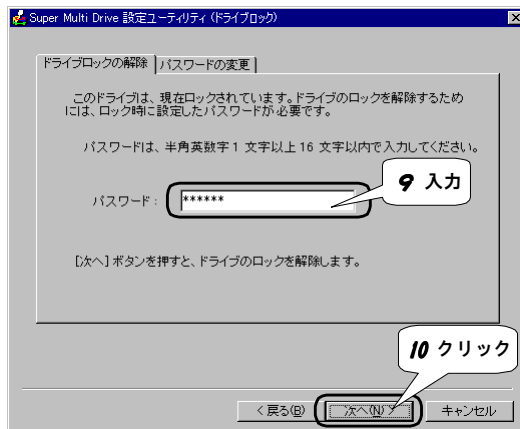
本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

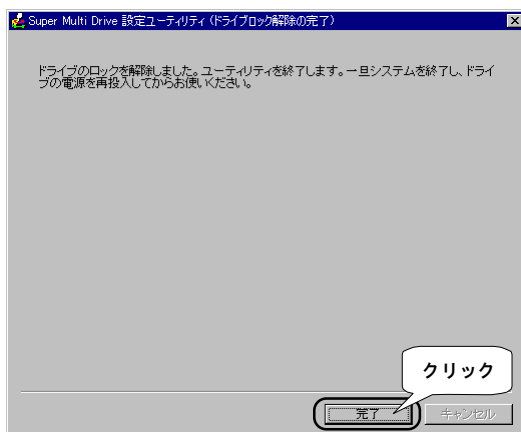
6　［ドライブロック］を選択します。

7　［次へ］ボタンをクリックします。

8 今から何をするかを選択します。

行いたい作業のタブをクリックします。
ここからは、行う作業によって分かれます。

● ［ドライブロックの解除］タブの場合

9 ロックするときに設定したパスワードを入力します。

パスワードについて
パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。 また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。 パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。 その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

10 ［次へ］ボタンをクリックします。

11 ［完了］ボタンをクリックします。

12 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

13 本製品のモードを変更します。

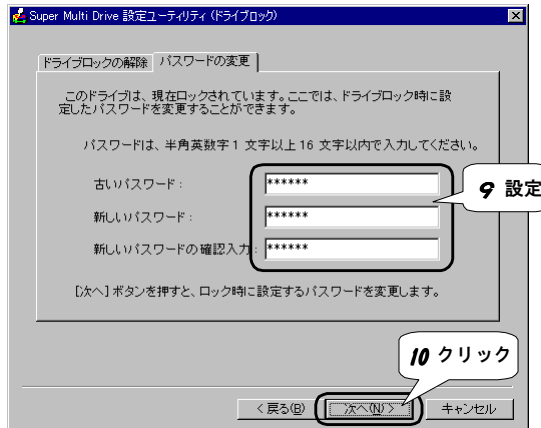
【モードを切り替える】（89ページ）を参照してモードスイッチを変更してください。

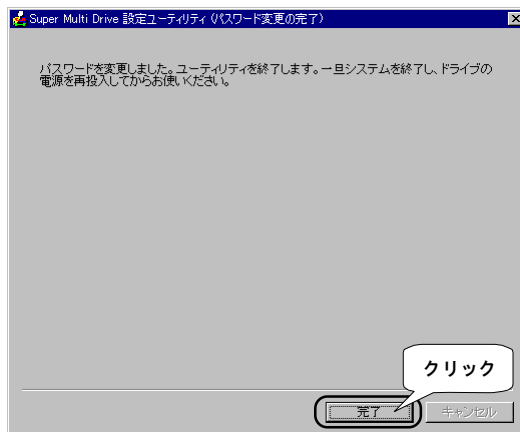
これで本製品のロックは解除されました。
再びハードディスクとしての使用が可能となります。

● ［パスワードの変更］タブの場合

9 パスワードを設定します。

「古いパスワード」にロックするときに設定したパスワード、「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認」に新しく設定したいパスワードを入力します。

パスワードについて
パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

10 ［次へ］ボタンをクリックします。

11 ［完了］ボタンをクリックします。

12 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

これでパスワードは変更されました。

DOSの場合

ここでは、DOS版「Super Multi Drive設定ユーティリティ」を使用する方法について説明しています。

●マルチドライブ分割比率変更機能（本ページ）

●ドライブロック機能（113ページ）

マルチドライブ分割比率変更機能

プログラムモードに切り替える

1　パーティションがある場合は、すべて削除します。

モードを変更する前に、FDISKなどで本製品内すべてのパーティションを削除します。

> **ご購入後に本製品を一度も使用したことがない場合**
> **パーティションはありませんので、削除する必要はありません。**
> **そのまま次へお進みください。**

2　プログラムモードに切り替えます。

パソコンおよび本製品の電源を切り、モードスイッチを「7」に変更します。

ユーティリティで比率を変更する

3　本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

4　添付のCD-ROMを挿入します。

5 「DUMUTL」を起動します。

「E:¥UMUTL¥DOS¥DUMUTL」(CD-ROMドライブがEの場合)と入力し、↵キーを押します。

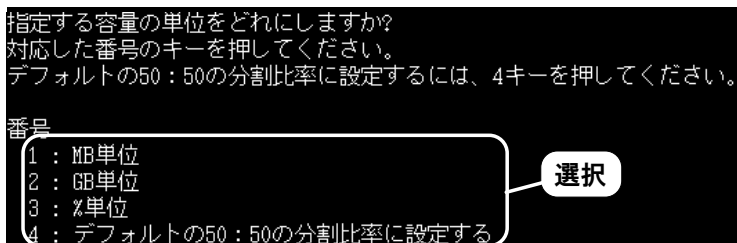
6 分割比率を変更したい本製品を選択します。

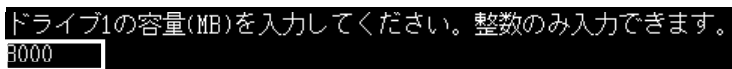
本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

7 [1 : マルチドライブ分割比率変更]を選択します。

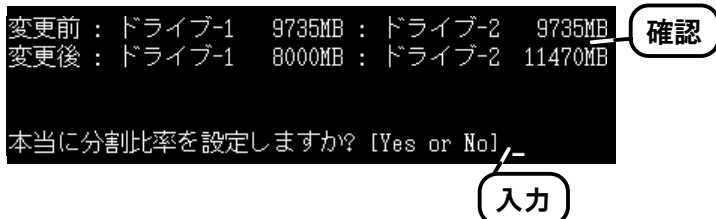
[1] キーを押します。

8 「表示」にて表示方法を選択します。

表示したい単位・割合を選んで、それに対応したキーを押します。

9 容量を設定します。

指定した単位で、ドライブ1の容量を入力してください。ドライブ2の容量は自動的に決定されます。入力が終わったら、↵キーを押します。

PC-9800シリーズで40Gバイト以上の本製品をお使いの場合
分割した両ドライブとも32Gバイトを超えないように設定してください。

10 内容を確認します。

「変更前」と「変更後」の数値を確認し、良いなら［Y］キーを押します。［N］キーを押すと、操作を終了します。

11 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

本製品をフォーマットする

ご使用の機種によって操作手順が異なります。

- PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合(本ページ)
- PC-9800シリーズの場合(次ページ)

●PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合

12 本製品のモードを変更します。

【モードを切り替える】(89ページ)を参照してモードスイッチを変更してください。

13 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

14 本製品を「物理フォーマット」などをします。

SCSIインターフェイスやソフトウェアにより、物理フォーマット、もしくはデータ管理情報の消去を行います。
詳細は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

データ管理情報の消去について
本製品は物理フォーマットに時間がかかります。
データ管理情報の消去を行うことができれば、物理フォーマットを行うよりも短い時間で作業を終わらせることができます。

15 本製品をフォーマットします。

【PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンをお使いの場合】(33ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

●PC-9800シリーズの場合

12 本製品のモードを変更します。

【モードを切り替える】(89ページ)を参照してモードスイッチを変更してください。

13 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

14 本製品を初期化します。

「FORMAT /H」と入力し、↵キーを押して初期化を行ってください。

データ管理情報の消去について

本製品は初期化に時間がかかります。
データ管理情報の消去を行うことができれば、初期化を行うよりも短い時間で作業を終わらせることができます。

15 本製品をフォーマットします。

【PC-9800シリーズをお使いの場合】(59ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

ドライブロック機能

本機能はロックされていない本製品の場合と、ロックされている本製品の場合で、できることが変化します。
ご使用の本製品に合わせて、お読みください。

ロックされていない本製品の場合

本製品をロックします。

プログラムモードに切り替える

1 プログラムモードに切り替えます。

パソコンおよび本製品の電源を切り、モードスイッチを「7」に変更します。

ユーティリティでロックする

2 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

3 添付のCD-ROMを挿入します。

4 「DUMUTL」を起動します。

「E:¥UMUTL¥DOS¥DUMUTL」(CD-ROMドライブがEの場合)と入力し、↵キーを押します。

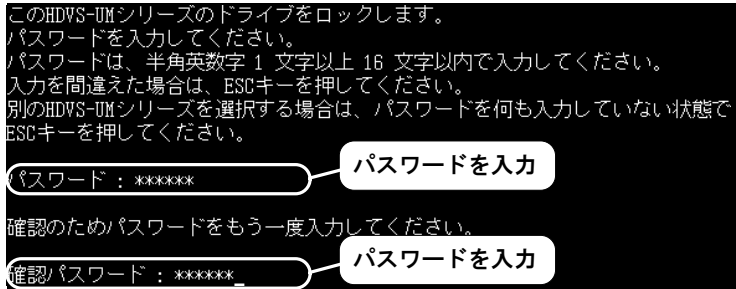
5 ロックしたい本製品を選択します。

本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

6 ［2 ： ドライブのロック］を選択します。

［2］キーを押します。

7 パスワードを設定します。

パスワードの入力を聞いてきますので、パスワードを入力し、↵キーを押してください。パスワードは16文字までです。確認のためもう一度パスワードを聞いてきますので、同じパスワードを入力し↵キーを押してください。

```
このHDVS-UMシリーズのドライブをロックします。
パスワードを入力してください。
パスワードは、半角英数字 1 文字以上 16 文字以内で入力してください。
入力を間違えた場合は、ESCキーを押してください。
別のHDVS-UMシリーズを選択する場合は、パスワードを何も入力していない状態で
ESCキーを押してください。

パスワード : ******

確認のためパスワードをもう一度入力してください。

確認パスワード : ******_
```

パスワードを入力

パスワードを入力

この時点で本製品はロックされます

パスワードを設定し、［次へ］ボタンをクリックした時点で、本製品はロックされます。
起動ドライブに対して、ドライブロック機能を使用すると起動できなくなりますので、誤って設定しないようご注意ください。

パスワードについて

パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

8 ロックをしてよいか確認し、［Y］キーを押します。

確認のためのメッセージが表示されますので、ロックを行うなら［Y］キーを押してください。［N］キーを押すと操作を終了します。

```
本当にドライブをロックしますか? [Yes or No] _
```

9 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

これで本製品はロックされました。
解除するまで、ハードディスクとしてアクセスできません。

ロックされている本製品の場合

本製品のロックを解除したり、パスワードを変更したりします。

ユーティリティで解除・変更する

1 **本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。**

2 **添付のCD-ROMを挿入します。**

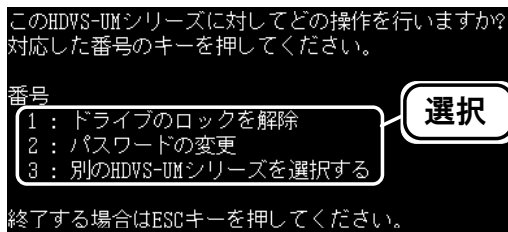
3 **「DUMUTL」を起動します。**

「E:¥UMUTL¥DOS¥DUMUTL」(CD-ROMドライブがEの場合)と入力し、↵キーを押します。

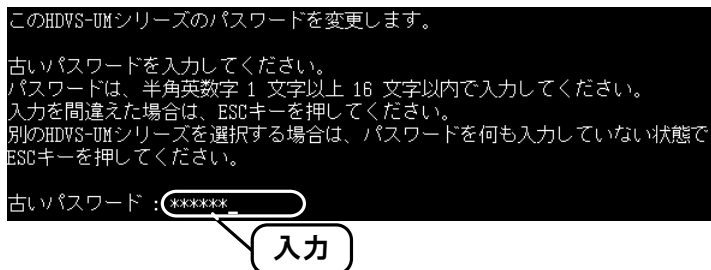
4 **作業したい本製品を選択します。**

本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

5 今から何をするかを選択します。

［ドライブのロックを解除］か、［パスワードの変更］のどちらか行いたい作業の番号を入力します。
［3］キーを押すと、本製品の選択に戻ります。行いたい作業のタブをクリックします。
ここからは、行う作業によって分かれます。

● ［ドライブのロックを解除］の場合

6 ロックするときに設定したパスワードを入力します。

ロックするときに設定したパスワードを入力し、↵キーを押します。

パスワードについて

パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

7 ロックを解除してよいか確認し、［Y］キーを押します。

確認のためのメッセージが表示されますので、ロックを解除するなら［Y］キーを押します。［N］キーを押すと操作を終了します。

```
本当にドライブのロックを解除しますか? [Yes or No] _
```

8 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

9 本製品のモードを変更します。

【モードを切り替える】(89ページ)を参照してモードスイッチを変更してください。

これで本製品のロックは解除されました。
再びハードディスクとしての使用が可能となります。

●［パスワードの変更］の場合

6 パスワードを設定します。

「古いパスワード」にロックするときに設定したパスワード、「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認」に新しく設定したいパスワードを入力します。

パスワードについて
パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

7 パスワードを変更するか確認し、［Y］キーを押します。

確認のためのメッセージが表示されますので、パスワードを変更するなら［Y］キーを押します。［N］キーを押すと操作を終了します。

```
本当にパスワードを変更しますか? [Yes or No]
```

8 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

これでパスワードは変更されました。

Macintoshの場合

ここでは、Macintosh版「Super Multi Drive設定ユーティリティ」を使用する方法について説明しています。

●マルチドライブ分割比率変更機能(本ページ)

●ドライブロック機能(124ページ)

マルチドライブ分割比率変更機能

プログラムモードに切り替える

1 パーティションがある場合は、すべて削除します。

モードを変更する前に、フォーマッタソフトなどで本製品内すべてのパーティションを削除します。

ご購入後に本製品を一度も使用したことがない場合
パーティションはありませんので、削除する必要はありません。
そのまま次へお進みください。

2 プログラムモードに切り替えます。

パソコンおよび本製品の電源を切り、モードスイッチを「7」に変更します。

ユーティリティで比率を変更する

3 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

4 添付のCD-ROMを挿入します。

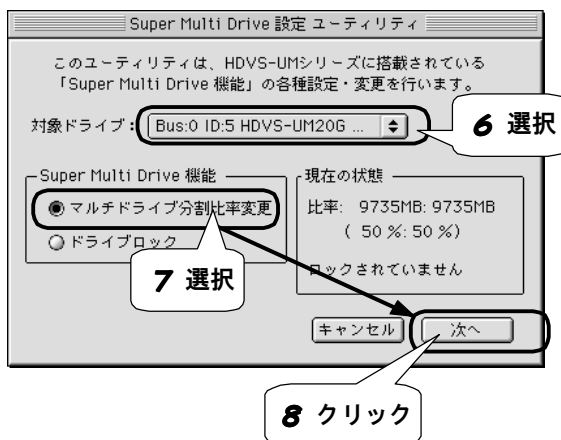
5 「HDVS-UM Utility」を起動します。

「HDVS-UM SMD」CD-ROM内の［HDVS-UM Utility］をダブルクリックします。

6 分割比率を変更したい本製品を選択します。

本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

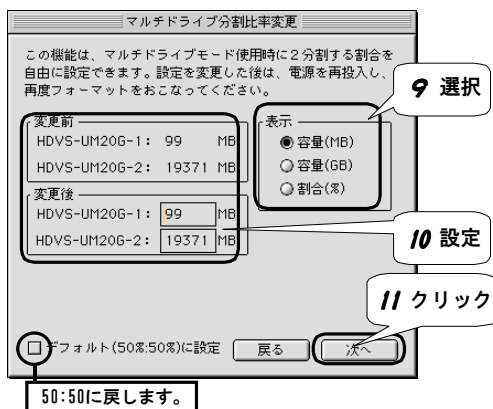
7 ［マルチドライブ分割比率変更］を選択します。

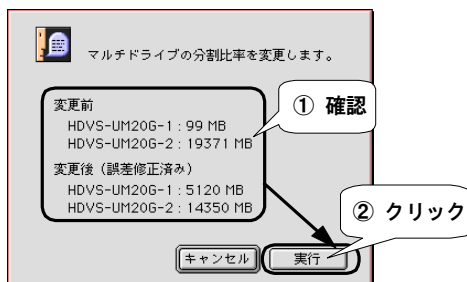
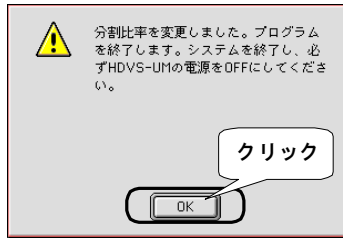
8 ［次へ］ボタンをクリックします。

9 「表示」にて表示方法を選択します。

容量を表示する単位、もしくは割合を選択します。

10 「変更後」にて容量を設定します。

もしくは「変更後」に入力することで容量を設定します。

11 [次へ] ボタンをクリックします。

12 内容を確認します。

「変更前」と「変更後」の数値を確認し、良いなら[実行]ボタンをクリックします。

13 [OK] ボタンをクリックします。

14 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

本製品をフォーマットする

15 本製品のモードを変更します。

【モードを切り替える】(89ページ)を参照してモードスイッチを変更してください。

16 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

17 本製品をフォーマット・イニシャライズします。

【フォーマット・イニシャライズしよう】(81ページ)をご覧になってフォーマット・イニシャライズしてください。

ドライブロック機能

本機能はロックされていない本製品の場合と、ロックされている本製品の場合で、できることが変化します。
ご使用の本製品に合わせて、お読みください。

ロックされていない本製品の場合

本製品をロックします。

プログラムモードに切り替える

1 プログラムモードに切り替えます。

パソコンおよび本製品の電源を切り、モードスイッチを「7」に変更します。

ユーティリティでロックする

2 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

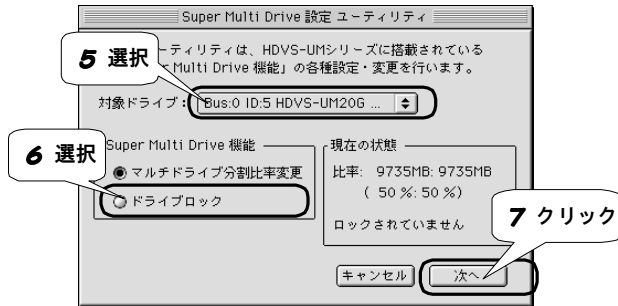
3 添付のCD-ROMを挿入します。

4 「HDVS-UM Utility」を起動します。

「HDVS-UM SMD」CD-ROM内の［HDVS-UM Utility］をダブルクリックします。

5 ロックしたい本製品を選択します。

本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

6 ［ドライブロック］を選択します。

7 ［次へ］ボタンをクリックします。

8 パスワードを設定します。

同じパスワードを「パスワード」と「パスワードの確認入力」に入力します。

9 ［ロック］ボタンをクリックします。

この時点で本製品はロックされます

パスワードを設定し、［次へ］ボタンをクリックした時点で、本製品はロックされます。

起動ドライブに対して、ドライブロック機能を使用すると起動できなくなりますので、誤って設定しないようご注意ください。

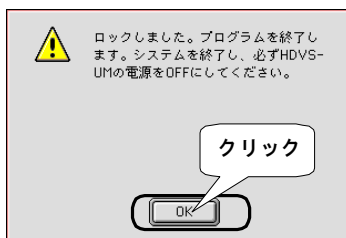
パスワードについて

パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。

また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。

パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。

その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

10 ［OK］ボタンをクリックします。

11 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

これで本製品はロックされました。
解除するまで、ハードディスクとしてアクセスできません。

ロックされている本製品の場合

本製品のロックを解除します。

ユーティリティで解除する

1 **本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。**

2 **添付のCD-ROMを挿入します。**

3 **「HDVS-UM Utility」を起動します。**

「HDVS-UM SMD」CD-ROM内の［HDVS-UM Utility］をダブルクリックします。

4 **作業したい本製品を選択します。**

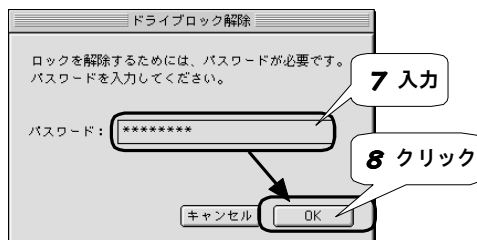
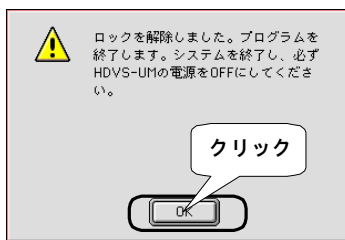
本製品を複数お使いの場合は、ここで選択します。

5 **［ドライブロック解除］を選択します。**

6 **［次へ］ボタンをクリックします。**

7 ロックするときに設定したパスワードを入力します。

パスワードについて
　パスワードを忘れた場合は、本製品をお使いいただけません。
　また、弊社では紛失したパスワードを調べることはできません。
　パスワードは忘れないように手帳などにメモしておく事をお勧めします。
　その際は、メモは本製品とは別の場所に保管してください。

8 ［OK］ボタンをクリックします。

9 ［OK］ボタンをクリックします。

10 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

11 本製品のモードを変更します。

【モードを切り替える】（89ページ）を参照してモードスイッチを変更してください。

これで本製品のロックは解除されました。
再びハードディスクとしての使用が可能となります。

付録

困った時には	本製品を使用中に、異常があったときにご覧ください。(130ページ)
対応表	推奨SCSIインターフェイスにて本製品をどう使えるかを記載します。(139ページ)
パーティションについて	パーティションについて説明します。(148ページ)
ノーマル⇔マルチドライブで切り替える	「ノーマルモード」⇔「マルチドライブモード」に切り替える場合の手順について説明します。(151ページ)
B'sCrew for Windowsについて	B'sCrew for Windowsについて説明します。(155ページ)
別売オプション品について	別売オプション品について説明します。(157ページ)
ハードウェア仕様	本製品の仕様を説明します。(158ページ)

困った時には

パソコン起動時のトラブル

パソコン起動時に起こる異常について説明します。（131ページ）

フォーマット時のトラブル

フォーマット時に起こる異常について説明します。（133ページ）

使用中のトラブル

使用中に起こる異常について説明します。（137ページ）

トラブル	内容	ページ
起動	IDスキャン(デバイススキャン)に本製品が表示されない	１３１
	パソコンが起動途中で動かなくなる	１３２
	「マイコンピュータ」に本製品のアイコンが表示されない	
	Windows 98/95/2000で、本製品が「その他のデバイス」として認識される	
フォーマット	PC98-NXシリーズおよびDOS/VマシンのFDISKで下のようになる ・「5　現在のハードディスクドライブを変更」が表示されない ・空き容量のあるディスクが見つからない	１３３
	Adaptec社製「AHA-2940(J)」に本製品を接続し、Windows 98/95のFDISK等で領域を作成後、再起動するとパソコンが動かない	
	PC-9800シリーズのDISKINITで「SCSI固定ディスク」が表示されない	１３４
	マルチドライブモードでお使いの際、片方を物理フォーマット中にもう片方にアクセスするとエラーが表示された	
	B'sCrew for Windowsの「パーティションの編集」で「ドライブスキャン中」と表示されたまま、パソコンが動作しなくなる	１３５
	B'sCrew for Windowsにて物理フォーマット中に、サスペンド機能が働いた場合、サスペンドを解除してもパソコンが動作しない	
	FDISKで、実際の容量よりも確保できる容量が少ない	
	FDISKで、2047Mバイト以上の領域を確保できない	１３６
	Macintoshのフォーマット時にパソコンが動かなくなる	
	Macintoshのイニシャライズ時にパソコンが動かなくなる	
	Macintoshでデータをコピーしたとき、元の倍以上の容量になる	
使用中	使用中にデータエラーが発生したり、アクセスランプが点灯したままパソコンが動かなくなる	１３７
	DOS/Vマシンで、本製品から起動できない	
	DOS/VマシンとPC-9800シリーズで本製品を併用できない	１３８

パソコン起動時のトラブル

IDスキャン(デバイススキャン)に本製品が表示されない

原因１　SCSI機器が正しく取り付けられていない

パソコンおよびすべての周辺機器の電源を切り、本製品を含むすべてのSCSI機器の接続(ケーブル・ターミネータなど)を確認してください。

原因２　SCSI機器に電源が入っていない

パソコンおよびすべての周辺機器の電源を切り、本製品を含むすべてのSCSI機器の電源を入れてください。

原因３　SCSI-IDが重複している

パソコンおよびすべての周辺機器の電源を切り、本製品と他のSCSI機器にSCSI-IDの重複がないように設定し直してください。

原因４　SCSIインターフェイスが本製品のSCSI-IDを認識しない設定になっている

SCSIインターフェイスのBIOS設定で、該当するSCSI-IDを認識するように設定してください。
詳細は、お使いのSCSIインターフェイスの取扱説明書を参照してください。

原因５　モード切替スイッチが0、3～7以外に設定されている

モード切替スイッチを、使用するモードに設定してください。

原因６　SCSIバスの状態が不安定である

接続機器の接続順序や、接続ケーブルを変更してみてください。また、接続ケーブルが長すぎないか確認してください。
（SCSIインターフェイスの取扱説明書参照）

パソコンが起動途中で動かなくなる

原因 **何らかの設定がおかしい**

前のページの【IDスキャン(デバイススキャン)に本製品が表示されない】をご覧ください。

「マイコンピュータ」に本製品のアイコンが表示されない

原因1 **領域確保またはフォーマットされていない**

ご使用の機種・OSに応じた場所をご覧になり、領域確保またはフォーマット後、再起動してください。

原因2 **「FDISK」でパーティションの設定が正しくない**

ご使用の機種・OSに応じた場所をご覧になり、FDISK以降の手順をやり直してください。

原因3 **SCSIインターフェイスが使えるようになっていない**

SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になり、SCSIインターフェイスを使えるようにしてください。

原因4 **何らかの設定がおかしい**

前のページの【IDスキャン(デバイススキャン)に本製品が表示されない】をご覧ください。

Windows 98/95/2000で、本製品が「その他のデバイス」として認識される

原因 **モードスイッチを「7」にしている**

① [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
② **「Super Multi Drive設定ユーティリティ」を**
お使いになる場合は、起動してください(91ページ参照)。
お使いにならない場合は、パソコンおよび本製品の電源を切ってモードスイッチを変更してください(89ページ参照)。

フォーマット時のトラブル

PC98-NXシリーズおよびDOS/VマシンのFDISKで下のようになる
- 「5 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されない
- 空き容量のあるディスクが見つからない

原因1 **SCSI PCカードやBIOSの無いSCSIボードに接続して使用している**

FDISKでは初期化・領域確保はできません。
各SCSIインターフェイスの取扱説明書を参照し、作業を行ってください。

原因2 **Windows 98/95にて「Command Prompt Only」で起動していない**

【Windows 98/95でフォーマットしよう】(36ページ)の手順にしたがって作業を行ってください。

原因3 **SCSIインターフェイスのBIOSを使用しない設定になっている**

SCSIインターフェイスのBIOSを使用する設定にした後、もう一度FDISKを起動してください。詳しくは、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

Adaptec社製「AHA-2940(J)」に本製品を接続し、Windows 98/95のFDISK等で領域を作成後、再起動するとパソコンが動かない

原因 **8.4G以降の本製品は「AHA-2940(J)」とWindows 98/95との組み合わせでは使えません**

PC-9800シリーズのDISKINITで「SCSI固定ディスク」が表示されない

原因１ **SCSI PCカードやBIOSの無いSCSIボードに接続して使用している**

DISKINIT(およびFDISK)では初期化・領域確保はできません。各SCSIインターフェイスの取扱説明書を参照し、作業を行ってください。

原因２ **Windows 98/95にて「コマンドプロンプトのみ」で起動していない**

【Windows 98/95でフォーマットしよう】(62ページ)の手順にしたがって作業を行ってください。

原因３ **SCSIインターフェイスのBIOSを使用しない設定になっている**

SCSIインターフェイスのBIOSを使用する設定にした後、もう一度DISKINITを起動してください。詳しくは、SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

マルチドライブモードでお使いの際、片方を物理フォーマット中にもう片方にアクセスするとエラーが表示された

原因 **PCSC-FやCBSCⅡ（16ビットモード）で本製品をお使いの場合は、ASPIFORM.EXEでマルチドライブの片方のドライブを物理フォーマット中に、もう片方のドライブにアクセスしてはいけません。**

物理フォーマット中にもう片方のドライブにはアクセスしないでください。また、物理フォーマットを行う際には、ハードディスクにアクセスするような常駐ソフト（ウィルススキャンソフトなど）は外しておいてください。

B'sCrew for Windowsの「パーティションの編集」で「ドライブスキャン中」と表示されたまま、パソコンが動作しなくなる

原因 **ドライブスキャンに数分かかる場合がある**

ハードディスクのアクセスランプが点滅している場合、実際には正常動作しています。ドライブスキャンが終了するまでお待ちください。
この時に、[Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを押し、アプリケーションの状態を表示させると、「応答なし」と表示されますが、問題ありません。

B'sCrew for Windowsにて物理フォーマット中に、サスペンド機能が働いた場合、サスペンドを解除してもパソコンが動作しない

原因 **正常に物理フォーマットを行っている**

ハードディスクのアクセスランプが点灯している場合、物理フォーマットが進行中です。物理フォーマットが終了するまでお待ちください。
物理フォーマットが終了すると正常に動作するようになります。

FDISKで、実際の容量よりも確保できる容量が少ない

原因 **SCSIインターフェイスが誤認識、もしくは対応していない**

SCSIインターフェイスの対応や誤認識については、SCSIインターフェイスのメーカーにお問い合わせください。

FDISKで、2047Mバイト以上の領域を確保できない

原因1　OSの仕様である

[MS-DOS(PC DOS)、Windows 95 4.00.950/4.00.950a]

OSの仕様により、2047Mバイト以上の領域は確保できません。

原因2　大容量ディスクのサポートを使用可能にしていない

[Windows 98,Windows 95 4.00.950/4.00.950a]

OSの仕様により、2047Mバイト以上の領域は確保できません。

Macintoshのフォーマット時にパソコンが動かなくなる

原因　フォーマットのオプション設定が正しくない

フォーマットの設定で「全体を0で埋める」等の項目があった場合は、使わないように設定してください。

Macintoshのイニシャライズ時にパソコンが動かなくなる

原因　一部のMacintoshおよびPerformaの仕様である

フォーマッタソフトの「ブラインド転送」に関する設定を使わないようにしてください。

Macintoshでデータをコピーしたとき、元の倍以上の容量になる

原因　コピー元とコピー先でパーティションタイプが違う

コピー先を「HFS+」形式にすると、ファイルの管理が効率化されます。【パーティションタイプについて】(83ページ)をご覧ください。

使用中のトラブル

使用中にデータエラーが発生したり、アクセスランプが点灯したままパソコンが動かなくなる

原因１　SCSIバスの状態が悪い

ケーブル長が長い、ケーブル類の品質が悪い、電気的なノイズの影響を受けている等の理由が考えられます。
下の方法をお試しください。
①本製品のみ接続してお試しください。
②【接続しよう】（25ページ）をご覧ください。
③本製品や他のSCSI機器の同期転送速度を下げてください。
　方法については、ご使用のSCSIインターフェイスの取扱説明書を参照してください。

原因２　SCSI-IDの設定が正しくない

本製品のSCSI-IDを他のSCSI機器よりも小さくしてください。

DOS/Vマシンで、本製品から起動できない

原因１　起動用のIDEハードディスクがある

起動用のIDEハードディスクは取り外す必要があります。

原因２　SCSI PCカードやBIOSの無いSCSIボードに接続して使用している

本製品をSCSI PCカード及びBIOSの無いSCSIインターフェイスで使用する場合は、起動用とすることはできません。

DOS/VマシンとPC-9800シリーズで本製品を併用できない

原因

「PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシン」と「PC-9800シリーズ」でフォーマットを行わずに本製品を併用することはできない

「PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシン」から「PC-9800シリーズ」（その逆でも）に本製品を取り付けなおす時には、大事なデータをバックアップした後で新たに取り付けるパソコンでフォーマットしなおしてください。

対応表

ここでは、推奨SCSIインターフェイスをお使いの場合に、本製品をどう使えるかを表にて記載しています。

以下の場合はここをお読みになる必要がありません
- **弊社製 推奨SCSIインターフェイス以外をお使いの場合**
- **8.4Gバイト以下の本製品のみをお使いの場合**
- **Windows 98/95、Windows 2000、Windows NT 4.0以外のOSにて本製品をお使いの場合**
- **Macintoshにて本製品をお使いの場合**

SC-PCIをお使いの方へ
SC-PCIをお使いの場合は、【SC-UPCIまたはSC-PCIをお使いの場合】(9ページ)をご覧ください。

次ページ以降の対応表の見方
お使いのSCSIインターフェイスとOSの交差した部分をご覧ください。

・SCSIインターフェイス
- **SC-UPCI：SC-UPCIシリーズ**
- **PCSC-F：PCSC-Fシリーズ**
- **CBSCⅡ：CBSCⅡシリーズ**
- **SC-NBPCI,SC-NBUN：SC-NBPCIおよびSC-UBUNシリーズ**

・**記号**
○：すべての容量を使用可能　△：一部の容量のみ使用可能　×：使用不可

HDVS-UM13Gの場合

PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合

●ノーマルモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	○	△※	△※	△※
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※ 使用できる容量は「2,047MBのパーティション×５」となります。

●マルチドライブモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	○	○※	○※	○※
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※ 容量分割比率を変更する場合は、両ドライブとも約10,235Mバイト以下の容量に設定してください。

PC-9800シリーズの場合

●ノーマルモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	×	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	×	△※	△※	△※
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※ 使用できる容量は「2,047MBのパーティション×５」となります。

●マルチドライブモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	○※1	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	○※1	○※2	○※2	○※2
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※1 「ドライブ１」「ドライブ２」とも約8,192Mバイト以下の容量に設定してください。
※2 容量分割比率を変更する場合は、両ドライブとも約10,235Mバイト以下の容量に設定してください。

HDVS-UM20Gの場合

PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合

●ノーマルモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSCⅡ	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	○	△※	△※	△※
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※ 使用できる容量は「2,047MBのパーティション×５」となります。

●マルチドライブモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSCⅡ	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	○	○※	○※	○※
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※ 容量分割比率を変更する場合は、両ドライブとも約10,235Mバイト以下の容量に設定してください。

PC-9800シリーズの場合

●ノーマルモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	×	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	×	△※	△※	△※
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※ 使用できる容量は「2,047MBのパーティション×5」となります。

●マルチドライブモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	△※1	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	△※1	○※2	○※2	○※2
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※1 ドライブの片方を約8,192Mバイト以下に設定し、そのドライブをお使いください。
もう片方は、他のOSでお使いください。

※2 容量分割比率を変更する場合は、両ドライブとも約10,235Mバイト以下の容量に設定してください。

HDVS-UM27G, HDVS-UM30Gの場合

PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	○	△※	△※	△※
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※ 使用できる容量は「2,047MBのパーティション×５」となります。

PC-9800シリーズの場合

●ノーマルモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	×	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	×	△※	△※	△※
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※ 使用できる容量は「2,047MBのパーティション×５」となります。

●マルチドライブモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	△※1	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	△※1	△※2	△※2	△※2
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

※1 ドライブの片方を約8,192Mバイト以下に設定し、そのドライブをお使いください。
もう片方は、他のOSでお使いください。
※2 使用できる容量は「2,047MBのパーティション×５」となります。

40Gバイト以上の本製品の場合

PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合

●ノーマルモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSCⅡ	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	×	×	×	×
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

●マルチドライブモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSCⅡ	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	○	○	○	○
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	×	×	×	×
Windows 2000	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	×	○	○

PC-9800シリーズの場合

●ノーマルモードの場合

PC-9800シリーズでは32Gバイト以上のハードディスクは使えません
PC-9800シリーズでは、32Gバイト以上のハードディスクは使えないため、本製品をノーマルモードでお使いいただくことはできません。

●マルチドライブモードの場合

OS	SC-UPCI	PCSC-F	CBSC II	SC-NBPCI, SC-NBUN
Windows 98	○※1	○※1	○※1	○※1
Windows 95 (4.00.950 B/ 4.00.950 C)	△※2	○※1	○※1	○※1
Windows 95 (4.00.950/4.00.950a)	×	×	×	×
Windows 2000	○※1	○※1	○※1	○※1
Windows NT 4.0	○※1	×	○※1	○※1

※1 容量分割比率を変更する場合は、両ドライブとも約32Gバイト以下の容量に設定してください。
※2 ドライブの片方を約8,192Mバイト以下に設定し、そのドライブをお使いください。もう片方は、他のOSでお使いください。

パーティションについて

ここでは、パーティションについて説明します。

パーティションを作らないと本製品は使えません
本製品に限らず、通常１台のハードディスクは１つまたはそれ以上のパーティション（区画領域）を作らなければ、使うことができません。

●１つのパーティション＝１つのドライブ

ハードディスクのパーティションは、作成したパーティション単位にドライブ名が割り当てられます。

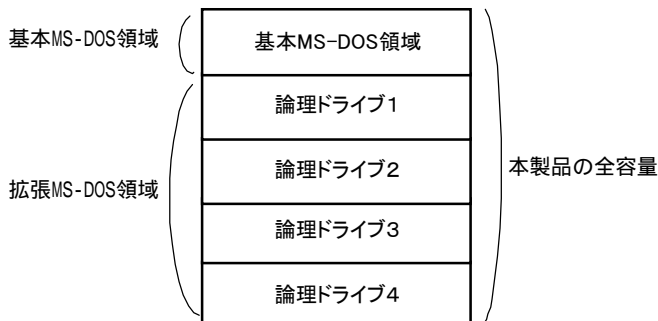
●パーティションの種類

◆ Windows 98/95/NT/Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)の場合（PC-9800シリーズを除く）

パーティションには以下の2つがあります。

・基本MS-DOS領域
「基本MS-DOS領域」は1つしか作成できません。
また、ハードディスクを増設用として使用する場合には、「基本MS-DOS領域」を作成せず、「拡張MS-DOS領域（の論理ドライブ領域）」だけを作成しても使用できます。

・拡張MS-DOS領域の論理ドライブ領域
「拡張MS-DOS領域の論理ドライブ領域」は、「拡張MS-DOS領域」内に作成します。複数作成することができます。

本製品内に「基本MS-DOS領域」が１つと
「拡張MS-DOS領域」内に論理ドライブが４つある例

◆ Windows 2000の場合

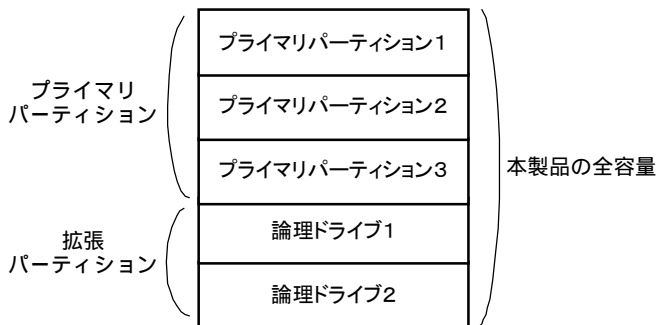
パーティションには以下の２つがあります。

・プライマリパーティション

「プライマリパーティション」は４つまで作ることができます。ただし、「拡張パーティション」を作る場合は３つまでとなります。

・拡張パーティション

「拡張パーティション」は１つ作ることができます。
「拡張パーティション」内に、プライマリパーティションと同じように使える論理ドライブを複数作ることができます。
論理ドライブを複数作ることにより、ハードディスクを４つ以上に分けることができます。

本製品内に「プライマリパーティション」が３つと「拡張パーティション」内に論理ドライブが２つある例

PC-9800シリーズをお使いの場合

通常、PC-9800シリーズではプライマリパーティションのみ作成できます。なお、本製品の状態によってはプライマリパーティション以外のパーティションも作成することができることがあります。このような状態で作成したパーティションはMS-DOSなどのOSで認識できなくなる場合があります。

●ドライブ名が変わることがあります
(PC-9800シリーズ、Windows 2000/Windows NTを除く)

ハードディスクのドライブ名が変わるパターン

・パソコンにすでに接続されているハードディスク
「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」がある

・本製品
「基本MS-DOS領域」がある

上の２つの条件が揃った場合、ドライブ名が変わってしまいます。

ドライブ名が変わる理由
「基本MS-DOS領域」は「拡張MS-DOS領域」よりも優先されます。
従って、本製品に「基本MS-DOS領域」があった場合、パソコンにすでに接続されているハードディスク内の「拡張MS-DOS領域」よりも優先されます。
そのため、ドライブ名が変更されます。
ドライブ名を変えたくない場合は
ドライブ名を変えたくない場合は、本製品には「拡張MS-DOS領域」のみを作ってください。
※Windows 98/95用のB'sCrew for Windowsでは、必ず「基本MS-DOS領域」を作成しますので、【Windows 98/95でフォーマットしよう】(36,62ページ)の作業にてフォーマットしてください。

ハードディスク以外のドライブ名が変わるパターン

例えば、CD-ROMドライブの場合、本製品フォーマット後、取り付けた本製品のドライブ名が内蔵ハードディスクとCD-ROMドライブのドライブ名との間に入ります。

ドライブ名が変わる理由
本製品フォーマット後は、CD-ROMのドライブ番号を指定したバッチファイルなどがある場合は新しいドライブ番号に変更してください。
また、CONFIG.SYSにLASTDRIVEの設定が必要となる場合があります。

ノーマル⇔マルチドライブで切り替える

ここでは、本製品のモードを「ノーマルモード」から「マルチドライブモード」へ、また逆に「マルチドライブモード」から「ノーマルモード」へと切り替える場合の手順について説明します。

本作業を行うと

本作業を行うと、本製品内に保存された内容はすべて消えてしまいます。
必要なデータを他のハードディスクなどに保存した後で、本作業を行ってください。

モード切替スイッチを切り替える前に

ここの手順では、モード切替スイッチを切り替える前に何らかの作業を行う場合があります。
必ず、手順に沿って作業を行ってください。

PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・次ページ

PC-9800シリーズの場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・153ページ

Macintoshの場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・154ページ

PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンの場合

1 本製品内のすべてのパーティションを削除します。

FDISKなどで本製品内のすべてのパーティションを削除します。
マルチドライブモードでお使いの場合は、両ドライブともパーティションを削除してください。

2 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

3 モード切替スイッチを切り替えます。

モード切替スイッチの設定については、【本製品を設定しよう】(22ページ)をご覧ください。

4 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

5 本製品を「物理フォーマット」などをします。

SCSIインターフェイスやソフトウェアにより、物理フォーマット、
もしくはデータ管理情報の消去を行います。
詳細は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

データ管理情報の消去について
本製品は物理フォーマットに時間がかかります。
データ管理情報の消去を行うことができれば、物理フォーマットを行うよりも短い時間で作業を終わらせることができます。

6 本製品をフォーマットします。

【PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシンをお使いの場合】(33ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

PC-9800シリーズの場合

1 本製品内のすべてのパーティションを削除します。

FDISKなどで本製品内のすべてのパーティションを削除します。
マルチドライブモードでお使いの場合は、両ドライブともパーティションを削除してください。

2 パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。

3 モード切替スイッチを切り替えます。

モード切替スイッチの設定については、【本製品を設定しよう】(22ページ)をご覧ください。

4 本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。

5 OSによって作業が異なります。

Windows 98/95/2000の場合

特に作業は必要ありません。次の手順へお進みください。

Windows NTの場合

SCSIインターフェイスやソフトウェアにより、物理フォーマット、もしくはデータ管理情報の消去を行います。
詳細は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

Windows 3.1およびMS-DOSの場合

「FORMAT /H」と入力し、↵キーを押して初期化を行うか、データ管理情報の消去を行ってください。

データ管理情報の消去について
本製品は物理フォーマット・初期化に時間がかかります。
データ管理情報の消去を行うことができれば、物理フォーマット・初期化を行うよりも短い時間で作業を終わらせることができます。

6 本製品をフォーマットします。

【PC-9800シリーズをお使いの場合】(59ページ)をご覧になってフォーマットしてください。

Macintoshの場合

1 **本製品内のすべてのパーティションを削除します。**

フォーマッタソフトなどで本製品内のすべてのパーティションを削除します。
マルチドライブモードでお使いの場合は、両ドライブともパーティションを削除してください。

2 **パソコン、本製品を含むSCSI機器の順に電源を切ります。**

3 **モード切替スイッチを切り替えます。**

モード切替スイッチの設定については、【本製品を設定しよう】(22ページ)をご覧ください。

4 **本製品を含むSCSI機器、パソコンの順に電源を入れます。**

5 **本製品をフォーマット・イニシャライズします。**

【Macintoshをお使いの場合】(79ページ)をご覧になって、フォーマット・イニシャライズしてください。

B'sCrew for Windowsについて

「B'sCrew for Windows」は、『本製品』を『既存の起動ドライブ』とまるごと交換し、起動用とすることができます。
その他にも、ドライブのフォーマット、ドライブのパーティションの編集などの機能があります。
詳細な機能の説明、使用方法などは『B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル』を参照してください。

● **対応機種・OSについて**

対応機種：NEC PC98-NXシリーズ、DOS/VマシンおよびPC-9821シリーズ
SCSIハードディスクの場合は、BIOSが搭載されたSCSIボードに接続されていること。（SCSI PCカードではご利用いただけません）

お使いのSCSIボードにBIOSが搭載されているかどうかはSCSIボードのメーカーにお問い合わせください。

対応OS：Windows 98(Second Editionを含む)およびWindows 95

● **ユーザー登録・お問い合わせについて**

添付の「ビー・エイチ・エー社宛ユーザー登録ハガキ」にてユーザー登録を行ってください。

B'sCrew for Windowsに関する お問い合わせ

B'sCrew for Windowsに関しては、
株式会社ビー・エイチ・エーまでお問い合わせください。

●お問い合わせ先
株式会社ビー･エイチ･エー　サポートセンター
TEL　06-6378-3568
FAX　06-6378-3336

受付時間：月～金曜日　10:00～12:00　13:00～17:00
（夏期･年末年始特定休業日、祝祭日を除く）

● インストールについて

「B’sCrew for Windows＋Super Multi Drive設定ユーティリティ」CD-ROMの「BSCREW」フォルダ内にある「BSCREWxxx.EXE」(xxxには数字が入ります)を起動してください。

● 本製品を起動用とするための条件について

・現在起動用としているハードディスク等のドライブがIDE/ATAPI機器の場合は、B’sCrew for Windowsでコピー後に取り外す必要があります。

起動可能なIDE/ATAPI機器があるとそちらが優先されます。

・現在起動用としているハードディスク等のドライブがSCSI機器の場合は、B’sCrew for Windowsでコピー後に、本製品のSCSI-IDをそのドライブより前に設定する必要があります。

・ご使用のパソコンで、SCSI機器からの起動ができる必要があります。

● アップデート情報について

B’sCrew for Windowsのアップデート情報等が、株式会社ビー・エイチ・エーのホームページで案内されています。最新のバージョンのご使用をおすすめします。

http://www.bha.co.jp/download/

別売オプション品について

お使いになるSCSIインターフェイスのコネクタ形状により、付属のSCSI接続ケーブルがご利用いただけない場合があります。また、ターミネータあるいは変換アダプタ等も必要となりますので、下記の別売オプションをお買い求めください。

型番	長さ	タイプ
A50-A50※1	75cm	SCSIｹｰﾌﾞﾙ（D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ⇔D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ）
A50-A50-M※1	50cm	同上（添付品と同等品）
A50-A50-S※1	30cm	同上
A50-A50-SS※1	10cm	同上（フラットケーブルロック機能なし）
A50-H50※1	75cm	SCSIｹｰﾌﾞﾙ（D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ⇔ｱﾝﾌｪﾉｰﾙﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ）
A50-H50-S※1	30cm	同上
F50-A50※1	75cm	SCSIｹｰﾌﾞﾙ（ｱﾝﾌｪﾉｰﾙﾌﾙﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ⇔D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ）
AP30-A50※1	48cm	SCSIｹｰﾌﾞﾙ（HDI30ﾋﾟﾝ⇔D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ）
TA-A50	―	アクティブターミネータ（D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ(ｵｽ)）
TA-H50	―	アクティブターミネータ（ｱﾝﾌｪﾉｰﾙﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ(ｵｽ)）
AD-SC/AH	―	変換アダプタ （D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ(ﾒｽ)⇔ｱﾝﾌｪﾉｰﾙﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ(ｵｽ)）
AD-SC/HA	―	変換アダプタ （ｱﾝﾌｪﾉｰﾙﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ(ﾒｽ)⇔D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ(ｵｽ)）
CBSCⅡ-A50-L※2	75cm	SCSIｹｰﾌﾞﾙ（専用25ﾋﾟﾝ⇔D-subﾊｰﾌﾋﾟｯﾁ50ﾋﾟﾝ）

※1：ハイ･インピーダンス タイプ
※2：本ケーブルはCBSCⅡシリーズ、PCSC-F専用です。
また、本ケーブルはデイジーチェーン接続にはご使用いただけません。
SCSI機器の使用は本製品１台のみとなります。複数台のSCSI機器を使用する場合には、有償にて専用SCSIケーブルを提供させていただきますので、弊社サービス窓口(TEL:076-260-3663)までお問い合わせください。

ハードウェア仕様

●HDVS-UMシリーズ

ハードウェア仕様については、添付の別紙をご覧ください。

サポートセンターへのお問い合わせ

HDVS-UMシリーズに関するお問い合わせ

弊社サポートセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.
(本書の巻末に貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

《連絡方法》

■オンライン

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	**http://www.iodata.co.jp/support/** 「サポートセンターお問い合わせ」内のフォームを使用してE-mailをお送りください。
@nifty	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)サポート会議室

■郵便

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町15街区7　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「HDVS-UMシリーズ」係　宛

■電話

電話番号	**本社**	**076-260-3366**
	東京	**03-3254-0301**
受付時間	**9:30～19:00** **月～金曜日（祝祭日を除く）**	

■FAX

FAX番号	**本社**	**076-260-3360**
	東京	**03-3254-9055**
宛先	**株式会社アイ・オー・データ機器** **サポートセンター「HDVS-UMシリーズ」係　宛**	

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

B'sCrew for Windowsに関するお問い合わせ

B'sCrew for Windowsに関する
お問い合わせ

B'sCrew for Windowsに関しては、
株式会社ビー・エイチ・エーまでお問い合わせください。

●お問い合わせ先
株式会社ビー・エイチ・エー　サポートセンター

TEL　06-6378-3568
FAX　06-6378-3336

受付時間：月～金曜日　10:00～12:00　13:00～17:00
（夏期・年末年始特定休業日、祝祭日を除く）

B'sCrew for Windowsのバージョンアップ

ビー・エイチ・エー社製 「B'sCrew for Windows」のバージョンアップサービスは弊社では行っておりません。

バージョンアップをご希望の場合は添付の「ビー・エイチ・エー社　ユーザー登録ハガキ」にてユーザー登録を行ってください。

また、㈱ビー・エイチ・エー社のホームページでもバージョンアップができます。

㈱ビー・エイチ・エー社のホームページ
http://www.bha.co.jp/

保証について

◎保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。
お送りいただいた製品を検査後、有償となる場合のみ往復ハガキにて修理金額をご案内いたします。修理するか否かを送られてきた往復ハガキにご記入の上、ご返送ください。
また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

◎保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失および破損。
・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼頂くか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

● 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。

● 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

● 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
◇保証書がない場合
◇保証書の所定事項が未記入の場合
◇逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
◇落雷などの事故による破損の場合
◇本製品を改造した場合

● 保証期間後は有償で修理いたします。
製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。
これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

● 修理品送付先

住所　**〒920-8513 石川県金沢市桜田町15街区7 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル**
株式会社アイ・オー・データ機器
「HDVS-UMシリーズ」　修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

● サービス窓口

電話番号　**金沢**　**076-260-3663**
受付時間　**9:30～12:00　13:00～17:00**
月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。